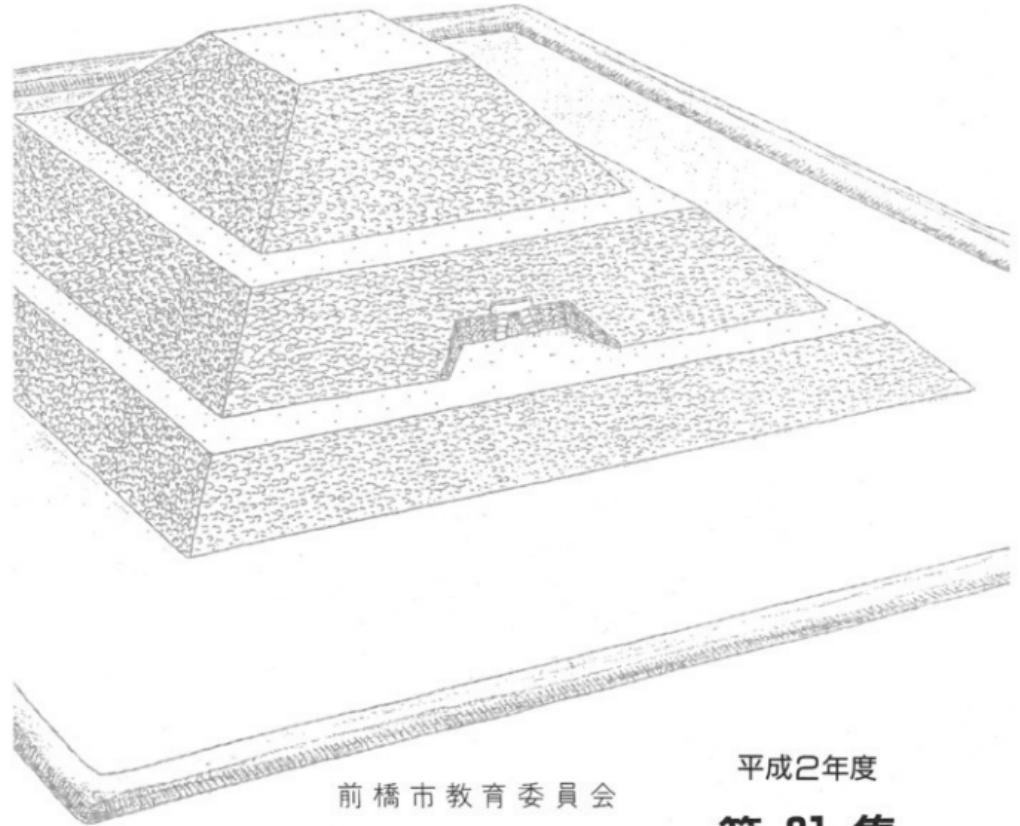


文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成21年度

第 21 集

序

文化財保護課が発足して、すでに2年半がたとうとしています。事業量も規模も増大しております。これも市民の皆様の要望に応えようとした姿勢の表れであります。

本書で報告しております平成2年度の文化財保護の諸事業は、市民の方々が文化財の価値を知り、親しんでいただくために行っております。この傾向は年々顕著になってきております。

大室公園整備に関しては、史跡整備のための調査が進んでおります。大室公園史跡整備委員会により、大室公園史跡整備基本構想が策定され、今後の史跡整備の方針づけができました。

散歩道整備も駐輪場整備や復元図作成、ハンドブック作成など、利用促進のための種々の事業を実施しております。

平成元年度に日本ナショナルトラストに調査を依頼した観光資源保護調査の報告会が行われ、総社歴史散歩道整備のための提言をいただき、併せて秋元歴史まつりを開催し、多くの参加者を迎えることができました。このまつりは平成3年度も開催を予定しております。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等、市民のみなさんが文化財に親しんでいただけるよう諸事業を実施いたしました。

埋蔵文化財調査としては、開発に伴う試掘調査、11遺跡の発掘調査と芳賀田地遺跡の報告書作成作業があげられます。元總社明神遺跡は第9次、内堀遺跡は第4次、横依遺跡は第2次の調査を実施し、貴重な記録を得ることができました。

臨江閣の整備終了にともない、ご披露の式が行われました。復元なった姿をご覧になった方も多いかとぞんじます。

最後に、こういった諸事業にご指導ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げると共に、この文化財調査報告書第21集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成3年9月

前橋市教育委員会

教育長 岡本信正

目 次

序

目次・例言

I 文化財調査委員による調査	1
徳藏寺文化財調査と由緒書き	1
徳藏寺関係文書について	3
什物目録	16件
石造物一覧表	36件
光巌寺灌頂道具調査	8
什物目録	18件
II 文化財調査	11
甲冑調査	2件
III 新指定物件紹介	3件
IV 文化財保護事業	18
1. 管理運営事業	18
(1) 国有文化財管理	18
(2) 国・県・市指定文化財管理	18
(3) 史跡の除草・清掃作業	18
(4) 文化財バトロール	19
(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理	19
(6) 共催及び後援	19
2. 整備事業	20
(1) 大室公園史跡整備事業	20
(2) 総社歴史散歩道整備事業	21
(3) 龍海院酒井家墓地保存整備事業	22
(4) 八幡山古墳修復事業	23
(5) 文化財補修工事	23
(6) 標柱、説明板、案内板設置事業	23
(7) 史跡境界杭設置事業	24
3. 普及事業	24
(1) 蚕糸記念館展示替	24
(2) 第16回前橋市文化財展	24
(3) 内堀遺跡現地見学会	24
(4) 文化財めぐりパンフレット増刷	24
(5) 文化財愛護ポスター作成	24
(6) 第18回前橋市郷土芸能大会	24

(7) 教材開発事業	25
(8) 第9回文化財普及講座	25
(9) 史跡・文化財めぐり	25
(10) 各種講座への講師派遣	25
(11) 文化財防火デー	25
(12) 文化財資料の貸し出し	26
(13) 文化財保存団体助成	26
(14) 「関東の華 前橋城」パンフレット配布	26
(15) その他	26
4. 調査事業	27
調査	27
観光資源保護調査	27
5. 埋蔵文化財発掘調査事業	28
本年度の発掘を振り返って	28
(1) 横俵遺跡群（西大室町）	31
(2) 内堀遺跡群IV（西大室町）	31
(3) 元總社明神遺跡IX	32
(4) 伊勢遺跡（上長磯町）	32
(5) ^{桑野} 糞遺跡（野巾町）	33
(6) 沼西遺跡（堤町）	33
(7) 沼西II遺跡（堤町）	34
(8) 谷端遺跡（小神明町）	34
(9) 寄居遺跡（文京町三丁目）	35
(10) 小見内遺跡（元總社町）	35
(11) 北原分中塚遺跡（總社町）	36
(12) 幸賀地区遺跡整理・遺跡台帳整備事業	36
6. 臨江閣本館及び茶室保存整備	37
あとがき	38

例 言

1. 本報告書は、前橋市文化財調査委員の文化財調査結果と前橋市教育委員会管理部文化財保護課で行つた、平成2年度の諸事業の概要をまとめたものである。
2. 本書の企画と編集は文化財保護課で行い、市民の方にわかりやすい表現、構成を心がけた。

I 文化財調査委員による調査

● 徳藏寺文化財調査

- 名称 功畠山蓮華院徳藏寺
- 所在 前橋市元総社町2379
- 住職 河合祖信
- 宗派 天台宗

平成2年度調査 2年11月1日、2日
什物、曼荼羅、石造物、懸仏など

鶴神社の東に位置する寺である。本尊は阿弥陀如来。文明3年(1471年)足利義政の祈願所として建立され、開基は重海と伝える。往時は寺中7カ寺があり、幕府より朱印16石を与えられていたという。慶長12年(1607年)秋元長朝が鶴神社城を築城するにあたり、寺中四カ寺を移して光巖寺とし、徳藏寺13世亮庵が両寺を兼務したという。寺の由緒と什物については、前住職坂東重海氏が書かれた文「徳藏寺由緒並びに什物について」に詳しい。

徳藏寺の歴代住職は位牌によれば、次の通りである。

1世 法印 重海	15世 僧正 山順
2世 法印 良傳	16世 法印 亮俊
3世 法印 重順	17世 法印 公宥
4世 法印 忠栄	18世大僧都 孝憲
5世 法印 恵傳	19世 法印 亮歡
6世 法印 尊徹	20世 法印 玄雄
7世 法印 重傳	21世 法印 良章
8世 法印 重運	22世 法印 眑覺
9世 法印 順舜	23世 法印 顯純
10世 法印 忠圓	24世 法印 順海
11世 法印 賢海	25世權僧正 嘉順
12世 法印 良然	26世大僧都 亮覺
13世 法印 亮應	27世權僧正定順
14世僧正 亮海	28世權大僧都然海

徳藏寺由緒並びに什物について 徳藏寺

當寺は文明三年辛卯年足利幕府八代將軍義政公の祈願所として創建され功畠山蓮華院徳藏寺と号し、天台宗延暦寺の末流に属す。重海法印を開山とし寺中七カ院（放光院 宝勝院 千手院 光明院 宝成院 正光院 成就院）末門十七カ寺（妙見寺 大福寺 延命寺 長泉寺 正法寺 羅王寺 不動院 宝積寺 清香寺 西福寺 満願寺 善性寺 普門寺 長樂寺 神宮寺 北原寺 西光寺）なり。朱印地十六石 墓越干有余戸を有し、本寺は東西二十四間、南北二十二間の堂宇たり。

爾來、法燈連綿の靈場たりしが、慶長十二丁未年秋元越中守殿、惣社に薦城するに当たり新規の建立禁制なりし為、天海僧正と内談の上、徳藏寺を菩提所として、本堂並びに寺中七カ院の中四カ院を移して光巖寺と称した。本寺十三世亮應同寺の初世に転住、以後本寺は寺名を残して二百六十六年に亘る。

明治五壬申年に至り外護の檀頭伊藤吉郎次殿外相謀り官に請ひ又光巖寺に折衝して独立し同年十一月現在の堂宇を再建し、權僧正然海法印二十八代の住職と推さる。尚其の後寺中の二院（寶勝院 千手院）を合併し、放光院は合併の手續中なり。

尚大正七年に本堂再建を企画せるも実現せず、昭和二十七年再び之を計画し、議論あり、同二十八年十月一日地鎮祭並起工式、本年三月十日上棟式を挙行し目下進捗中なり。

佛像之部

- 一、本尊 阿弥陀如来 立像 二尺六寸厨子入
脇侍 観世音菩薩 全 丈一尺五寸二分
大勢至菩薩 全 丈 全
- 由緒 旧徳藏寺本尊
- 一、降魔大師 木像一龕 坐像 丈一寸四分厨子入
由緒 往古より當山安置の靈像なりし處、光

巌寺創立以後當寺々中に於いて守護し來たりし処
明治三庚午年中光巌寺へ遷座奉す。

當山の再興なるや明治六癸酉年一月三日更に當
山に安置し奉る。

- 一、弥勒菩薩 坐像 丈二寸二分 身子入
- 一、藥師如來 全 丈四寸
- 一、觀音菩薩 全 丈二寸六分

由緒 身子敷板の記に曰く、弥勒菩薩、磐筒
男神本地 藥師如來、磐筒女神本地 観世音菩薩
經津主本地此三尊者古来惣社明神本地佛なるを以
て、本社殿の背後宮殿に安置し、參詣の衆庶崇敬
ありしを、維新の際、神仏混淆の禁令出るに依り、
當寺の神官住者の緣由あるを以て、尊像安置を當
寺に依託す。且つ本社の背後にある昔の宮殿は伊
藤家建立なるを以て、今其の日例に依り後嗣伊藤
金七明久殿、此の宮殿を造り當寺に奉納す。聊か
縁由を記して後世に伝ふと。明治二十八乙未年一
月廿六日 然近謹識ト

一、両界曼荼羅 絹地彩色墨像二幅

由緒 古来當山所傳の古画にして芭内書に云
く、永祿五壬戌季廢夏廿五日 願主法印忠圓 作
者鏡傳房と、忠圓は當山第十五世の住職なれども、
筆者並に伝来所由未詳。

一、釈迦牟尼佛 文殊菩薩 普賢菩薩 紙地彩色 墨像三幅对

由緒 吳道子の筆にして文明三年當山創立以
來傳來の墨像にして、芭内書に曰く上野国群馬郡
惣社 德藏寺 権大僧都法印重海文明三辛卯六年
一曰と明和二年九月願純之を補修す。

一、慈惠大師 絹本彩色墨像一幅

由緒 善山二十八世然海 東叢山在山中持領
セシモノノシテ神田宗庭の筆なり。

一、藥師堂本尊藥師如來 石像一軀

由緒 本村伊藤家創立にして現今堂宇は天保
十三年伊藤定吉殿の再建なり。

一、觀音堂本堂千手觀音 木像一軀 外に三十三 番觀音三十三軀但し焼失す。

由緒 西園三十三所巡拝に擬し創立せしもの

なれど、其年代等未詳にて星霜を経るの久しく、
自然破滅し加ふるに、明治四年二月本村大火の際
辛うじて本尊を出すと雖も尊影なかりし處、當山
廿八世然海深く之を憂ひ、明治三十四年八月大修
補し奉る。

古器物之部

一、銚飯 唐製一隻

由緒 文明年間より所傳の什器にして何カの
頃か鏡破裂して用を訣くこと久しく文政六年古
物の唐商より之を求めて対具せしものなり。

一、華籠 紙製金箔置 拾式枚

由緒 元龜四癸酉年霜月十五日泉義院の寄進
せしものなり。當山十吉世賢海代

一、慈惠供 (紙金泥一部) 慈惠大師供 文化五
戊辰年八月八日 (東叢山) 春性院第十四世大僧都
常諦 行年六十二譲書写之証 奉納 西大師御實
前二郎 文化五戊辰年八月東叢山春性院大十四世
常諦の書にして當山十八世然海在中持領せしもの
なり。

その他

以上の文章は徳藏寺前住職坂東叢海氏が書かれ
たもので、今回、文化財調査委員による調査に際
し、文化財保護課が、一部を補足した。



● 徳蔵寺関係文書について

徳蔵寺は江戸時代、光巣寺の隠居寺として住職が兼帯であったことから、古文書については現在ほとんど残っていない状態である。平成元年度の光巣寺文書調査で徳蔵寺の関係、あるいは所蔵であつたと思われる関係文書が、光巣寺文書中に見つかっている。

以下、紹介してみよう。

光巣寺文書No2（以下Noのみ表示）

徳蔵寺兼帯同意承認書

これは、寛文5年1月に毘沙門堂前大僧正公海が光巣寺当社にあてて送つたものである。徳蔵寺を光巣寺の隠居寺として兼帯に同意する内容である。

No3徳蔵寺兼帯承認書

天和4年2月に伝法心院大円覺院から光巣寺亮海あてにNo2と同様の趣旨を伝えている。

これらは慶長年間の光巣寺創設から60年ほどたつた時代であり、このころ徳蔵寺が光巣寺にいわば吸収されるようになったのではないか。

以下の文書の存在もそれを裏づけるものだろう。

No144本末寺徳分限書上控入

安永5年10月に光巣寺が差し出した控えであり、寺の判事の他、徳蔵寺中の寺院の明細が書かれている。

No237御朱印写

8通の朱印写があるが、徳蔵寺あてのものである。慶安2年の大猷院から安政2年の温恭院までのものである。

No283伐木届け他

嘉永元年に光巣寺が高崎役所に出した届けであるが、その中に徳蔵寺の明細が入っている。

No292届け

文政元年に光巣寺から領主に出しているもので、徳蔵寺境内に行倒人がいたための届けである。

No295願文

明治4年2月に光巣寺から出されているもので、

徳蔵寺の合併に反対の願いである。

No416戸籍帳

明治5年の徳蔵寺の戸籍帳である。

これ以外に文書ではなく、不動明王画像に徳蔵寺常什物と記されているものがある。

記載の文面は以下の通りである。

天文九庚子年二月十八日徳蔵寺十二世 権大僧都法印壽講良然寄附 上野国群馬郡社徳蔵寺常什物 本尊彩色井表具修補 施主栗島市兵衛 干時延享三年四月

● 県文書中の徳蔵寺関係文書

明治28年6月19日付けで県知事あてに笠澤然海住職が寺の状況を報告している。そこでは、徳蔵寺と放光院の二つの寺院にわかれている。

徳蔵寺については、天台宗比叡山延暦寺末七等寺徳蔵寺とあり、文明三年創立、慶安二年八月、徳川氏より先規により朱印地十六石とある。本尊阿弥陀如来協立觀音勢至二菩薩。境内坪数は545坪とあり、什宝について貯金茶羅二幅、祝迦、文珠、普賢面像三幅、堯飯寺通が文明三年より所伝と書かれている。

放光院については、徳蔵寺末十三等寺放光院とあり、創立年間不詳、本尊阿弥陀如来、境内坪数208坪とある。

光巣寺と徳蔵寺とのかかわりについては、慶長十二年秋元越中守、秋元山光巣寺創建に付き当寺（徳蔵寺）十三世亮應を以て、同寺開祖に転住せしめしより、以来当寺無住、光巣寺に於いて永年兼務、明治五年十二月官に請願の上、旧覆とある。

徳藏寺什物目録

カード番号	種別(名称)	材質	法量	備考
1	金剛界曼荼羅	麻地 著色 一部裁金	全幅 144 全高 244 絵幅 117 絵高 152	麻布3枚ついで使用している。縦書き表 上野国群馬郡懸社徳藏寺常口口両界口 箱書き裏 永祿第五季壬戌密要廿五日 繼主法印忠興 作者 鶴椿房 旧前に 金 徳藏寺 貽 徳藏寺 麻布の最大幅は43.5
2	旧箱	木製	全高 9.8 全幅 15 全長 136.2	チヨワナ削り 豊景籠が二箱収まっていた。
3	胎藏界曼荼羅	麻地 著色 一部裁金	全幅 144 全高 244 絵幅 117.5 絵高 154	金剛界曼荼羅と一つの箱に入っている
4	阿弥陀三尊画像	紙本 著色	三点とも同寸 全幅 56 全高 157 絵幅 38.5 絵高 75.9	江戸中期のもの
5	釈迦三尊画像	紙本 著色	三点とも同寸 全幅 213 全高 244.5 絵幅 97 絵高 147	
6	伝鈴虫筆名号帖	紙本	全幅 50.5 全高 225 絵幅 29.5 絵高 135.5	南無阿弥陀佛 正四位 山岡鉄太郎
7	釈迦三尊画像	木製	横幅 127 縦 26.2 高さ 12.5	裏に記載の文面 波道子筆 釈迦三尊 緯 三組對 上野国群馬郡懸社徳藏寺常什物 旧隣に記載の文面 住古々裏書云上野国群馬郡懸社徳藏寺重印 権大僧都法印 文明三年辛卯六月一日 明和二乙酉歲九月第十一世顕純修復之 上野国群馬郡懸社徳藏寺常什物
8	涅槃図	紙本 著色	全幅 257 全高 126 絵幅 95.3 絵高 148	明治のはじめ
9	寒山拾得	刷本 著色		秀慶
10	元三大師不巻	木製	全幅 4.0 全高 2.2 全奥 2.6	角大師
11-1	懸仏(彌勒菩薩)	銅製	径 26.6 厚さ 3mm	銅に金メッキ 像を鍛ぎしてある 板と一体、裏面に削り跡3カ所あり 内径17耳の間14.3像高11.2像幅7.5膝張り6.6肩幅4.4頭厚さ2.4
11-2	懸仏(藥師如來)	銅製	径 26.7 厚さ 1mm	銅で像と両脇の花瓶を後から付けている 厚さ1mm 像高13.7膝張り8.8頭厚さ2.8花瓶高5.8花瓶幅2.3花瓶厚さ1.4
11-3	懸仏(觀音菩薩)	銅製	径 24.8 厚さ 0.6mm	銅で像を打ち出している 像高9.6像幅3.4膝張り5.1肩幅2.5頭厚さ1.6
12	不動明王	木製		
13	菩薩像	木製	全高 19.2 像高 17.2 2.2	善光寺三尊の脇侍 菩經印を結び 肩幅4.0頭高4.0頭幅
14	歴代住職位牌	木製	前高 47.5 横 25.6 厚さ 2.0	黒漆塗り 台座幅36.6 台厚さ7.8
15	すり金	金屬製	径 36.0 厚さ 9.0 内法 17.6	
16	鏡鏡		径 36.2 厚さ 28	朱書きに舊寺徳藏寺來所傳之鏡鏡何真鏡鏡及破鏡而刪用年久 口世哉茲續古物之唐鏡口口之内掛具承付而已 文政六年 未孟春 秋元山十三世方道萬願

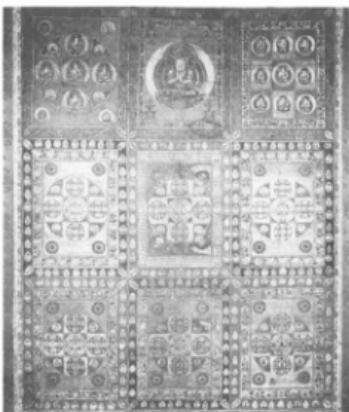
徳藏寺境内石造物一覧表

	名 称	法 量	銘 文 等
①	大日如来	95 83 31	
②	庚申塔	165 54 34	青面金剛像 一面六臂 二輪三猿 (右側面) 享保十甲寅歲十月吉日 馬場」新田
③	馬頭觀音	95 43 35	(正面) 馬頭觀世音」菊城島淡飯書 (右側面) 施主「伊藤藏之助 (左側面) 安政四丁巳星九月吉日
④	如意輪觀音	77 31 27	如意輪觀音像 (右側面) 文化八辛未歲「五月日立之」 東内出 (左側面) 講中「馬場町」金井門」新田町
⑤	地蔵菩薩坐像	76 34 18	
⑥	經典供養塔	111 44 31	(正面) 實曆六丙子天」讚頌普門品二十萬卷回向塔」四月吉祥日
⑦	淡島様	353 66 66	(裏) 昭和四年十月三日建立 (台座) 当所1 中宿15 内藤分7 阿弥陀寺2 殿小路17 上下宿19 下宿7 葉嶋町一同 東内出4 金井町9 馬場10 新田町20 朝日町10 稲葉町2 石倉14 稲荷台1 塚田3 正觀寺1 前原1 小八木1 曰高4 井野1 金尾4人廣中 上浜尻村念佛講中 秋父町詠歌教導森サト 上石倉7 桃井村 長岡2 山子町1 廣馬場1 豊秋3 中郷1 江田3 稲田 1 足門1 高井1 山王3 繩社町1 大屋敷1 植野1 井野村1 江木2 ウナギ1 浜川1 梅高2 福島1 前橋市23 駒寄村漆原1 大久保1 漆原16 半田1 塚田村 女人中二十八名 石倉3 浜尻村世話人柳田クラ 貝沢1 舟 村1 石工立川町窯翠山 前橋市9 スワ町1 立川町 櫻町 10 横山町1 豊町1 進益町2 神明町1 南クルワ町1 古市2 世話人 当所5 江田1 西国分1 正觀寺1 鳥羽1 清原 2 菩谷2 冷水1 小相木1 大友3 金古町1 上日高3 高畠1 上石倉1 稲荷台1 前橋2 京目1 大久保1 観 音寺 小八木1 発起人16 (数字は人数) (前面の石) 奉納 昭和四年十月三日「前橋市」石工兼石材店 斎ちゑせん、貞子口子
⑧	巡撫塔	165 40 39	(正面) 奉巡禮「秩父」坂東「西國」四國「供養塔」 (左側面) 明和五戊子十一月「當村伊藤半右衛門孝知」内藤分 温井兵右衛門守春「總社町新保藏右衛門一信」當村伊藤清右衛 門武元 (右側面) 廣馬場村灘澤吉右衛門
⑨	聖德太子	123 95 10	(正面) 聖德太子「法橋權少僧都哲則書」

			(左側面) 寛永六年歳次昭陽赤面若首夏上況 (裏面) 金二朱 越州ナホエツ高橋龜造 同同シハタ山口吉造 同同ショ羽鳥万造 同同ショ中条倉造 同同ショヨ仙八 同ウ エノノ五郎八 同右同ショ今井長造 シハタノ岩造 同同ショ 柳藏造 同同ロロロロ鈴木謙五郎 金一分 畂フシオカ山田謙 一郎 同フクシマリ吉二郎 金三朱 イカ木船口富吉 同ロロ 折岡虎一郎 同ロロハラル重次良 同當町小坂長兵衛 同カシ ヤロ栗山長吉 同カハ齊藤松五郎 同タツノ木段佐助 同カ ワシマ佐藤鶴吉 同ロ分石井鉄五郎 同ロロロロ渥井松五郎 同カワハラ平石千代吉 世話人 金一分 カハロタ大山鉄五郎 同越州ウエノ高井喜善松 同同ナカセンダ横口義助 同上シン デン大沢庄次郎 同ロロロロ小山清松 同サロロ小池勘太郎 繼 進中 発起人 畂町平林文四郎
⑪	不動明王	88	51 15
⑫	十王像		10基
⑬	石燈籠 一対	145	61 61
			(棹) 奉寄進 御宝前 享保七寅 十月吉祥日 石燈籠二基 祈願成所 元総社村廿番ロロロ
⑭	三界万靈塔	58	33 20
			(正面) 三界万靈等 (裏面) 木村源吉 宝曆十二年五月
⑮	阿彌陀如來	69	45 20
⑯	觀音如來	63	45 17
⑰	馬頭觀世音	40	20 10
⑱	阿彌陀如來	61	44 22
⑲	藥師如來	56	39 8
⑳	庚申塔	58	31 16
㉑	馬頭觀世音	64	35 20
㉒	馬頭觀世音	49	29 14
㉓	庚申	32	17 10
㉔	輪迴塔	227	82 62
㉕	石燈籠	145	67 67
㉖	藥師如來	29	24 9.5
㉗	地藏菩薩	25	15 7
㉘	地藏菩薩	24	12.5 9.5
㉙	地藏菩薩	15	13 9
㉚	如意輪觀音	35	28 11
㉛	藥師如來	26	24 15
㉜	藥師如來	22	24 11
㉝	十王	21	21 13
㉞	寶篋印塔		文化九年申年 八月吉日 古平源右衛門 建立
㉟	寶篋印塔	71.2	33 32
㉟	巡持塔	86	30 24
㉟	寶篋印塔	110	46.7 46



徳蔵寺両界曼荼羅（胎藏界）



徳蔵寺両界曼荼羅（金剛界）



徳蔵寺本尊阿弥陀如来（修理工前）



本尊背面「上州光嚴寺本尊」の銘文



阿彌陀如來（南北朝期）



輪廻塔（明応5年）

● 光巣寺灌頂道具調査

総社町の光巣寺が江戸時代から山形県立石寺に貸していた灌頂道具が返却されたことに伴い、平成2年12月26日に調査を行った。

内容の詳細は目録記載の通り。

道具の役割等を概略説明すると以下の通りである。

灌頂 頭部に水をそそぐことであるが、仏教では、仏が修業者の成仏を証明する意味で用いられる。密教では、教法を継承するための重要な儀式となって、それ以外の仏教と区別する特色となっている。灌頂を受ける者（受者）は、密教を正式に継承した阿闍梨から三昧耶戒を授けられ、導かれて曼荼羅を敷いた灌頂壇に向かって花を投げる。落ちた所の仏を有縁の本尊とするが、これを投花得仏という。その後、別に構えた正覚壇に至り、仏の知恵を象徴する瓶水をそそがれ、自身が仏と等しくなったと思し、有縁の仏の修行軌則・印明などを授けられる。これらをまとめて入檀灌頂という。

法曼流 天台宗に伝えられている密教、台密の内、台密十三流の一つ。相実和尚が台密の三昧流、大原流に真言宗につたわる東密を加えたものである。

金鉢 独鉢杵の先端の珠形を付けた形の法具。本来は、古代インドの医療器具がつたが、密教に取り入れられて衆生の無知の膜を去り、仏心眼をひらくことを象徴する法具になった。仏像開眼供養にも用いられる。

輪宝 古代インドの武器に源流をもつ。心中の賊敵を破ることを象徴せると共に、仏の説法が衆生の迷いを破る徳になぞらえる。

燈台 修法壇の四隅や壇の両側に置いて、仏・菩薩に燈明を献げる器具。

花瓶 供花の法具。本来、香水を入れる宝瓶である。覆いや栓のため花を挿したことから花器に転用された。

金剛鉢 密教の修法にさいし、これを振り鳴らして諸尊を驚覺して歡喜せしめ、眠れる仏心を呼び醒ますのに用いられる。柄の鉢部の形状で区別される。

鵺磨 三鉢杵を十字に組み合わせた形を基本とする。古代インドの武器に源流を持つ。大檀の四隅に安置して修法の成就をはかる。

三鉢 杵形の把の両端に三本の鉢をつけたもの。古代インドの武器に源流を持ち、心中の煩惱を打ち碎き、仮性を顕現させる意味で用いる。

四欄 檻はくいの意味で、檀の四隅に立てるところから四欄とよび、これに檀線を張って結界するのに用いられる。

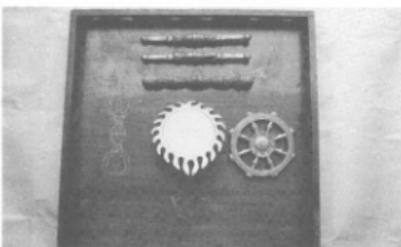
如意 法具の一つ。もとは孫の手のようなもので儀式につかわれるようになった。説法、論議の講師が持つ。

食道 一般にいう檀引のこと。大檀の四隅に食道を敷く。胎藏界では白色、金剛界では赤色を用いる。

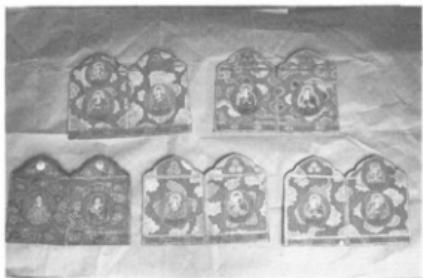
覆面 金剛界では赤色を用いる。



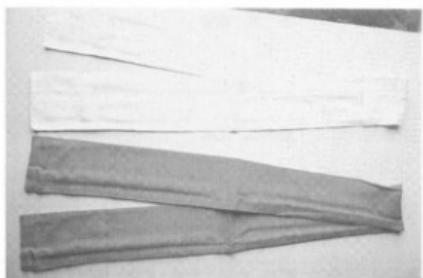
法曼流灌頂私記



鏡・輪宝・鉢



寶冠



覆面



金剛鈴・諸宝など



如意



相實和尚絵像



金剛薩埵絵像

光巖寺什宝目録

(1~138までは文化財調査報告書20集掲載)

カード番号	種別(名称)	材質	法量	備考
139	法曼流瀧頂私記 全拾四卷		鉛幅32.7	合行草瀧頂(享保九年四月八日書写 當樂寺克謙) 合瀧私記 上巻法曼流 合瀧私記下巻法曼流 金瀧私記法曼流秋元山 (享保九年四月 昌樂 克謙) 金瀧私記上巻法曼流 金瀧私 記下巻法曼流 許可私記法曼流秋元山(延享三仲冬 光巖寺 顯純) 第五秘密私記法曼流秋元山(寛文十九月上 斯雄) 三摩那戒儀法曼流秋元山 鹿瀧頂私記法曼流秋元山 鹿瀧私 記上巻法曼流 鹿瀧私記下巻法曼流 瑞儀私記法曼流秋元山 瀧頂権法曼流秋元山
140	追冥箱壹個	木製	36.5 36.5 6.4	鉛3本内1本は不裏 鏡 純宝
141	十方神供用燈台盤		9×8.6	50枚
142	真輪製大版 参鈎		19.2 口径 7.7 底径 9.7	立石寺のもののが一個ある。花瓶
143	寶冠 給人分		15 20	2種各5枚
144	金剛鉢 鐘宝など			参鈎鉢 露鉢 青銅 青銅 参鈎 五鈎 寶鉢 鐘宝 痴磨4 大綱宝
145	大爐の三鉢	木製	37.6 25	
146	護摩爐用四脚門標	木製	22.5 7.7	
147	覆面		125.0 8.7	赤6 白6
148	行者用敷曼荼羅		49.5 49.5	受者用 5枚
149	行者用敷曼荼羅			開闢梨用 3枚 1辺67mmほど
150	天蓋重要抹羅		148 148	
151	食道		151 20	4枚
152	法曼院始祖相實和尚繪像		57.5	1幅
153	而界敷曼荼羅			大111×111 小107.4×111.6
154	金剛薩埵繪像		78.5	
155	稚子曼荼羅		136 75.2	2幅
156	如意			1握
157	而界曼荼羅		175 111	

II 文化財調査



紺糸威三枚胴具足

前橋市千代田町1~13~16 神明宮

兜 金箔押紺糸懸威桃形兜

●法量 鉢高18.3 鉢前後怪(鉢下端で)23.2 鉢左右怪(鉢下端で)19.4 脇丈(後正中で)15.0

●重量 1,100g

●形状 鉢 鉄桃形金箔押。眉庇の前正中に鉄黒漆塗の前立の角元、腰巻の板の両脇に鉄黒漆塗の脇立の角元を付ける。眉庇は鉄当世形、金箔押、裏は朱漆塗。鉢裏に浅葱麻に萌黄糸の百重刺、縁を藍韋とした受張が付く。

輪 鉄一文字頭板札、金箔押、紺糸懸威五段下り、日根野形。札頭を捻返しとする。耳糸は白、萌黄、紺、紫の啄木打。駐目、菱縫はなし。輪一段を吹返す。吹返に猪目形透がある。鉢付鉢は奈良菊鉢、四力所留め。但し、射向の後側一力所欠失。現状は三力所のみ。

兜の緒 紅の麻繩、三所付け。

立物 前立 怪7.5 厚さ0.3 重量130g 金

鋼劍酢漬草放。

竪立 縦長45.5 重量240g 根元を木製、先を紙の貼重ねとした張懸の鹿角。

●法量 金箔押紺糸威三枚胴

●法量 前胴丈(胸板中央上端から衡胴五段下端まで)35.2 後胴丈(押付の板中央上端から衡胴五段下端まで)38.2 摺ぎの糸丈(衡胴五段の毛立の孔から草摺一段札頭まで)9.0 草摺丈(一段札頭から五段下端まで)24.5

●重量 4,800g

●形状 胴 鉄一文字頭板札、金箔押、前立拳三段、後立拳四段、衡胴五段、紺糸懸威、耳糸は白、萌黄、紺、紫の啄木打。射向及び引合の後胴側の二力所を各段蝶番留めとした三枚胴。金具廻、肩上は鉄金箔押。小鶴、襟廻は白韋、亀甲金入。菱綴紺糸、亀甲綴紫糸、縁藍韋。裏は萌黃地雲龍文錦。高紐は紺糸。眸は牛水の角製。肩上側に青鞆、胸板側に笠鞆が付く。後胴の押付の板に鉄黒漆塗のガッタリ、衡胴四段中央に藍韋の待受が付く。引合の緒は紺糸、引合せの後側の五段目に金銅の楕円形の縁錦の環が付く。胸裏は革包黒漆塗。

草摺 革碁石頭板札、金箔押、六間五段下り。

紺糸威、耳糸は紺糸。駐目、菱縫なし。裏は黒漆塗、鉄敷入り。摺ぎの糸は紺糸威。

類當て 半頬

●法量 類の最大幅15.4 垂の丈(一段上端から四段下端まで)11.1

●重量 390g

●形状 鉄金箔押、頬に折釘が付く。頬に汗落と

しの孔がある。垂は鉄板札、金箔押、四段下り。紺糸素懸威五通、耳糸感木打、鞋目、菱縫なし。裏は黒漆塗。

状はほとんど欠損している。底には黒漆塗の革を貼る。沓の芯は木綿、中に紺糸のきれ残る。緒は紺糸韋の総縫。

籠手 鬼沙門籠手

- 法量 総丈67.7
- 重量 1,450g
- 形状 二の腕に鉄一文字頭板札、金箔押、六段下りの仕付け袖が付く。板札の縁を捻返す。紺糸感、耳糸、鞋目、菱縫なし。肘は八重鎖格子繋ぎ。腕は鉄五本縫、金箔押。手甲は鉄金箔押。小縁は藍韋、手甲裏は黒韋。家地は萌黄地雲龍文錦、裏は浅葱麻、緒は藍韋。緒所は紺糸。

佩盾 板佩盾

- 法量 総丈53.0 上端幅48.5 オメリ上で幅63.4
- 重量 1,020g
- 形状 鉄骨牌金、金箔押、一段七枚、四段下り、筒を八重鎖繋ぎとする。家地は萌黄地雲龍文錦。力韋、オメリは正平韋、縁を白、紫、萌黄の蛇腹伏せとする。緒は藍韋、裏は浅葱麻、緒が付く。緒の芯は練麻。

脛当 七本襷脛当

- 法量 総丈31.0
- 重量 520g
- 形状 鉄七本縫、金箔押。家地は萌黄地雲龍文錦。縁は藍韋、裏は浅葱麻。十王頭は白韋、菱縫紺糸、電中綴紫糸、緒藍韋。緒具芯は菖蒲韋。緒は青色の平綿、芯は練麻。

貢

- 法量 縦長24.5
- 重量 200g
- 形状 表面は毛を植えて漆塗としているが、現

具足櫛

- 法量 蓋上端で 縦42.0 横39.0 底下端で 縦47.5 横45.0 高さ 65.0
- 形状 甲盛印籠蓋造、角を唐戸面に仕立てる。表面は木地溜塗(透漆塗)、唐戸面は黒漆塗とし、鉄製の角金具を付ける。側面に連尺が付く。

全体を金箔押とした革やカで、かつ実用本位の構造な仕立ての具足である。籠手や佩盾の家地などのように後補と思われる部分もあるが、江戸時代中頃を下らない具足と考えられ、保存状態も良好である。神明宮の宝物古鏡物古文書目録帳写記には「甲冑 酒井雅楽頭奉納禮具」の記載があり、これに該当する可能性が高い。酒井家は慶長九年(1604)に忠恭が前橋に入封以来、寛延二年(1679)に忠恭が姫治に移封されるまで、八代にわたり前橋藩主となつてあり、初代忠忠と三代忠行をのぞいて、雅楽頭を名乗つている。

酒井家にゆかりがあると考えられ、前橋市内に現存する具足として貴重である。



紺糸威二枚胴具足

前橋市荒牧町

兜 紺糸威六十二間筋兜

●法量 鉢高 15.0 鉢前後径(鉢下端で)26.2
鉢左右径(鉢下端で)24.4 鞘丈 17.4

●形状 鉢 六十二間鉄鑄地筋鉢四天鉢、譽孔あり。天辺座は金綱玉縁、金綱透菊立縁、赤錦小刻、金綱菊座、赤錦菊座、金綱菊座の六重。後正中に金綱笠印付鉢が付く。眉庇は鉄鑄地昔形、裏は朱漆塗、金綱唐草文毛彫りの覆輪懸。正中に角元があり真鍮の稻妻が付く。鉢裏に、紺麻に萌黄糸の百重刺、縁を藍韋とした受張が付く。

轔 目の札頭は一文字頭とする。耳糸、鞋目は白、萌黄、紫の啄木打。菱縫は、紅糸二段。轔一段を吹返す。吹返は鉄黒漆塗、中央に金綱剣唐花文の金物を打ち、金綱唐草毛彫りの覆輪懸とする。鉢付鉢は金綱笠鉢、小刻一段、菊座一段を加える。四力所留め。

兜の緒 紅の麻糸、二所付け。

前立 総丈30.0 最大幅32.6 竹金箔押熊手、紅糸の輸付き。

胴 鉄鑄地紺糸威二枚胴

●法量 前胴丈(胸板中央上端から衡胴五段下端まで)35.8 後胴丈(押付の板中央上端から衡胴五段下端まで)46.8 摺ぎの糸丈(衡胴五段の毛立の孔から草摺一段札頭まで)7.7 草摺丈(一段札頭から五段下端まで)22.7

●形状 胴 鉄鑄地山道頭板札をカラクリ留めとする。前立拳三段、後立拳四段、衡胴五段。胸板と前立拳一段、および脇板は紺糸威。押付の板と後立拳一段は紺糸菱縫とする。前後の立拳一段に金綱魚子地唐草毛彫の座金物に金綱剣唐花の鉢を打った八双金物を付ける。但し、後立拳一段の両端の鉢は欠失し、釘留めとしている。

頬 当 目の下頬当

●法量 頬の最大幅17.3 垂の丈(一段上端から四段下端まで)12.4

●形状 鉄鑄地目の下頬当、鼻懸け外し形。尾付。頬に折釘が付く。耳に梅鉢文透、額に汗落しの孔がある。垂は鉄黒漆塗切り札札、四段下り。紺糸威、耳糸、鞋目は啄木打。菱縫は紅糸一段。裏は黒漆塗。

籠 手 五本簾籠手

●法量 総丈70.0

●形状 二の腕は八重鎖繋ぎで、夜金を三段入れる。上部に白、紫、萌黄の蛇腹状を付ける。肘は八重鎖格子縫ぎ、菊座に帽頭を加えた座金入り。腕は鉄黒漆塗五本簾。手甲は鉄黒漆塗。金綱剣唐花文金物付。縁は藍韋。家地は白地雲龍文銀襷、裏は浅葱麻、縁は藍韋。緒所は紺糸。

佩 眠 板佩眉

●法量 総丈54.0 上端幅55.0

●形状 八重鎖繋ぎに役金を四段、四段目中段には幕座に帽額を加えた座金を入れる。家地は白地雲龍文銀襷。力韋、オメリは藍韋、縁を白、紫、萌黄の蛇腹伏せとする。縁は藍韋、裏は浅葱淡。鱗は角ボタン懸け。緒は紺縮綱。

經 当 七本綱經當

●法量 総丈30.7 最大幅39.0

●形状 鉄黒漆塗七本綱。筒は八重鎖繋。家地は白地雲龍文銀襷。縁は藍韋、裏は紺麻。十王頭は黒羅紗、菱綴紅糸、亀甲綴金糸、縁藍韋。鉄具緒は革金箔押。緒は紺縮綱の竹緒。前立拳二段目馬手側に采配付の鑓が付く。前胸射向側に黒羅紗の鼻紙袋が付く。縁は藍韋、ボタンは角。金具廻は鉄鍛地金鎖唐草毛彫りの覆輪懸。肩上は鉄黒漆塗、表を菖蒲韋包、裏を黒漆塗、金鎖唐草毛彫の覆輪懸とした障子の板と杏葉が付く。小緒、襟廻は黒羅紗、亀甲金入。菱綴紅糸、縁藍韋。裏は白地雲龍文銀襷。高紐は紺糸の懸通高紐。緒は水牛の角製。肩上側に青緒、胸板側に笠緒が付く。後胸の押付の板に鉄黒漆塗のガッタリ、衝刺四段目中央に鉄黒漆塗の待受が付く。後立拳二段目中央に金鎖魚子地唐草毛彫の隅入形の座に魚子地刻唐花文の締角付の鑓が付く。締角の紐は紅、白の角打。引合の緒は紺糸。引合せの後側の五段目に金鎖魚子地唐草毛彫に赤銅の口金を加えた締縁の鑓が付く。胸裏は革包黒漆塗。

草韋 革黒漆塗切付札、七箇五段下り。紺糸威。耳糸、眸目は白、萌黄、紫の豚木打。菱縁は紺糸二段。各段裏に、鉄歎を入れる。

腰革は黒漆塗。搖ぎの糸は紺糸威。

受筒 木製黒漆塗角形、口金は金銅。

指物 金箔押小槌、丈39.5 柄を含む総丈92.1

袖 小袖

●法量 総丈27.8 幅26.0

●形状 鉄黒漆塗切付札、七段下り、紺糸威。耳糸、眸目は白、萌黄、紫の豚木打。菱縁は紺糸二段。四段目に金銅の小刻一段、菊座に一段を加えた水呑の緒の鑓を付ける。緒は紺糸。上端二力所に角の跡が付く。裏は上五段を革包黒漆塗として足搔がない。

具足櫛 二合

●法量 蓋上端で 縦38.5 横40.0 高さ56.0

●形状 甲盛印籠蓋造、角を唐戸面に仕立てる。表面は弁柄漆塗、唐戸面は黒漆塗とし、鉄製の角金具を付ける。櫛の側面に「川越小河原左官武器」の貼紙がある。韋製黒漆塗撫子文金箔押の櫛覆が付属する。

具足櫛の貼紙に「川越小河原左官武器」とあるように、幕末の前橋藩筆頭家老、小河原左官政徳（1818～1868）所用の具足の皆具である。現在も小河原家に所蔵されており、保存状態も良好で、歴史的にも、貴重な資料である。

以上2件の甲冑の調査は平成2年1月24日、25日の両日、東京国立博物館刀剣室研究員、池田宏氏に依頼して実施したものである。

III 新指定物件紹介



大日如来

笠塔婆

鳥羽の大日如来及び笠塔婆

- ・区分 前橋市指定重要文化財
- ・記号番号 重第59号
- ・所在地 前橋市鳥羽町813 鳥羽町東部公民館内
- ・所有者 鳥羽町東部自治会
- ・管理者 鳥羽町東部自治会
- ・指定年月日 平成3年4月12日
- ・概要

大日如来座像

鎌倉中期ころと推定される大日如来の坐像である。舟型光背とともに一石であるが、上部を欠く。宝冠を付け、智拳印を結ぶ。顔幅は広い。

(銘文)

なし

(法量)

総高 71.0 総幅 54.5 (現状のまま)

像高 71.0 像幅47.0 (単位cm)

笠塔婆

角閃石安山岩からなり、塔身部のみでほどはない。正面に光背を形どった薬研彫りの枠の中に阿

弥陀三尊坐像を彫成している。中尊は三日月状の台座にすわり、九品の定印を結ぶ阿弥陀如来坐像である。右脇侍は左手に未敷蓮華を持ち、右手は降魔印になっている、觀音菩薩の坐像である。左脇侍は両手を合掌する勢至菩薩の坐像である。鎌倉後期と考えられる。

(銘文)

なし

(法量)

総高 81.5 総幅 44.5 奥行 20.5

中尊総高 30.5 右脇侍総高 21

左脇侍総高 21 (単位cm)

なお、この右側に南北朝期の阿弥陀如来もある。



(左)弥勒菩薩 (中)藥師如來 (右)觀音菩薩

徳藏寺の懸仏 3面

・区分	前橋市指定重要文化財
・記号番号	重第60号
・所在地	前橋市元総社町2379徳藏寺
・所有者	徳藏寺
・管理者	徳藏寺（住職 河合祖信）
・指定年月日	平成3年4月12日
・概要	

懸仏とは円板形の中央に半肉の仏像や神像を表に作り出し神殿や仏殿にさげたものである。古くは御正体ともいう。これは3面とも銅でできており金箔が全面にはほどこされていた。製作されたのは室町時代と考えられる。

懸仏を作ることは鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに行われた。その起りは神の依り代である鏡面に仏像や神像、種子や線刻や墨面で表す鏡像で、10世紀頃この鏡像が発展し半肉像や丸影像を表し、上方2カ所に懸垂する釣鐘金具を設けるようになり、懸仏となつた。

この弥勒菩薩は、像を半肉彫りにし板と一緒に鋳出している。宝塔を持つ弥勒菩薩の坐像である。総社神社の弥勒菩薩の懸仏とよくにているが、大きさは径が2.4cmほど小さい。裏面に銘文を削った

と思われる跡が3カ所ある。

薬師如来は、板に坐像を後からつけている。像の両側に胸にふくらみを持った花瓶がひとつづつ付けられている。

観音菩薩は、板に坐像を後からつけている。宝冠をつけた観音である。

〔銘文〕

なし

〔法量〕

弥勒菩薩 径26.6 厚さ3mm 像高11.2

像幅7.5

像厚2.4 内径17 鈕ガ2カ所ある

薬師如来 径26.7 厚さ1mm 像高13.7

像幅8.8

像厚3.9 花瓶高5.8 幅2.3

観音菩薩 径24.8 厚さ0.6mm 像高9.6

像幅5.1 像厚2.0

(単位cm)



稻荷新田の薬師

- ・区分 前橋市指定重要有形民俗文化財
- ・記号番号 有民第4号
- ・所在地 前橋市稻荷新田町458
稻荷新田町公民館内
- ・所有者 稲荷新田町自治会
- ・管理者 稲荷新田町自治会
- ・指定年月日 平成3年4月12日
- ・概要

この薬師に願をかけると、万病にきくといい、周辺の村から参拝する信仰がいまも続いている。

稻荷新田の薬師さまとよんであり、小石仏を借りる、あるいは願をかけてかなえられるとお弟子さまとよぶ小さい石仏をおさめた。願いをかける時は水を持っていき、水鉢にいれ手をぬらし具合いの悪い石仏の部分をなでた。また、お線香をあげた。全体をなでたが、特に悪い部分をていねいになでた。目の病にきくということで、目はよくなでられた。祭日にはワラツトッコに赤飯をいれて供えた。

周囲の小石仏は一部は2層に置かれ約1000体ほどあるといわれている。これは古市の石工などに頼んで造ったもので、10月8日の祭日の前に世話

人が周囲にかたずける。この世話人は2、30代の大世話人と17、8歳の小世話人からなっていた。現在は5、60代の人になっている。この石仏に名前を刻んだり、墨で書いたりすることはない。

また、2月22日の二十二夜講の時にこの薬師の和讚をとなえる。

伝説では、武士がこの石仏をしょってここまで来たが、重くなったのでここにいたいのだと思い安置したということである。お酒が好きで酒をかけると赤くなるという。

ここは、以前石仏を中心に小石仏がまわりに置かれ、杉ともみじの巨木がそびえていた。前には川がながれ、参道には石の橋がかかるていた。

中心の石仏は印相と像容から南北朝時代の阿弥陀如来坐像と考えられるが、風雨と信仰による摩滅が著しいため判然とはしない。桃型光背とともに一石である。肩張りは小さく、衣紋は線刻様である。蓮座の両端が上がっている。材質は角閃石安山岩である。

(銘文) なし

(法量) 縦高85.0 幅58.0 像高70.0
肩幅32.0 膝張り53.8 (単位cm)

文化財保護事業

1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成2年度においては、次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の関口利康さんと御供徳雄さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定の文化財が21件、県指定のものが37件、市指定のものが85件あり合計で143件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

①指定区別文化財

		重要文化財							
		古墳	史跡	天然記念物	美術文化財	民俗文化財	組合	重要文化財	その他
登録者	登録年	3	11	1	0	0	6	21	
登録者	登録年	82	4	0	0	1	0	37	
登録者	登録年	59	15	0	7	4	0	86	
登録者	登録年	94	30	1	7	5	6	143	

②時代区分文化財

時代別	指定期別				合計	
	国指定	県指定	市指定	件数	割合%	
（天） 無	1	0	0	1	0.7	
原 始	1	0	0	1	0.7	
古 代	14	2	15	31	21.6	
中 世	3	19	28	50	35.0	
近 世	2	13	37	52	36.4	
近 代	0	3	5	8	5.6	
合 計	21	37	85	143	100.0	

(平成3年4月12日)

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバーアイ材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物 件 名	区 分	所 在 地	面 積
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484m ²
2	金冠冢古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407m ²
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町618	3,000m ²
4	車 橋 門 踪	市指定史跡	大手町2-5-3	400m ²
5	添井歴代墓地	市指定史跡	和雲町2-8-15	3,800m ²
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730m ²
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,061m ²
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町2659 他	11,068m ²
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五科 1,501 他	16,000m ²
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2616-1 他	12,283m ²
11	鶴穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,793m ²
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204m ²
13	女 神	国指定史跡	東大室町・ 飯土井町	16,732m ²
計				87,982m ²



(4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上で的情報を伝えていただきました。そのため、

緊急事態に対応することができました。

各地区的文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	福 島 守 次		
綿社・元綿社	新 不 一郎 治		
広 島・山 王	関 板 長 雄		
芳 寶	佐 鹿 忠 重		
城 南	森 村 伊 劍 雄		

(平成3年4月1日現在)

(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い正井、大壁造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建築であり昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸等関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

また、今年度は開館以来10年目を迎えるにあたり、新しく購入したものや寄贈品を取り入れ、大幅な展示替えを行いました。



(6) 共催、後援

- ① 秋元歴史まつり

後援、平成2年11月17日～18日

- ② 第79回天然記念物日本犬展覧会

後援、平成2年11月11日

- ③ 地名特別講演会

後援、平成3年1月6日

2. 整備事業

(1) 大室公園史跡整備事業

平成2年度は、昨年度発足した大室公園史跡整備委員会（幹事会）を4回開催し、委員、幹事各位の指導、助言を得て、今後の史跡整備の基礎となる「大室公園史跡整備基本構想」を策定しました。構想は、大室公園建設予定地内の国指定史跡前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳附小古墳の整備を中心としたものですが、併せて建設が予定される資料館や民家変遷移築計画まで及んでいます。来年度からはこの基本構想を受け、古墳範囲確認調査などの実務的な事業に進む予定です。

なお、平成2年度の冬場には、今後の史跡整備の基礎資料として必要な大室三二子古墳現況測量図を作成しました。

大室公園史跡整備基本構想策定の経緯

- ・平成2年2月…大室公園史跡整備委員会発足
- ・平成2年5月…平成2年度第1回幹事会開催
- ・平成2年6月…幹事会調査研究視察（山梨）
- ・平成2年7月…平成2年度第1回委員会開催
- ・平成2年11月…平成2年度第2回幹事会開催
- ・平成2年11月…平成2年度第2回委員会開催
- ・平成2年12月…文化庁調査官現地指導訪問
- ・平成3年3月…基本構想策定

文化庁へ提出

大室公園史跡整備委員会組織

氏名	職名	担当事項
加藤 光郎	文化庁文化財保護局記念物課文化財調査官	元・2
岡本 弘正	前橋市教育委員会文化財課長	元・2
近藤 義典	前橋市文化財調査監査委員	元・2
副委員長 白石木一郎	国民生活改善条例認定申請（古墳）	元・2
委員 准士五十郎	東邦農業大学准教授（古墳等）	元・2
中原 五郎	前橋市文化財調査委員	元・2
伊東 功	群馬県立中央病院課長	元・2
梅沢 重治	群馬県立教育委員会文化財保護課長	元・2
間口 和也	前橋市文化財課長	元・2
大熊 朋一	前橋市文化財調査部長	元・2
遠藤 次也	前橋市教育委員会文化財課長	2
竹内 信也	前橋市教育委員会教科課長	2
二鬼 品一	前橋市教育委員会教科課長	元
小野坂哲勇	前橋市教育委員会教科課長	元
松屋 実治	前橋市文化財調査官	元
斎藤 事務長 井上 雄二	前橋市立農業村立小学校長	元・2
新 丸山 和義	前橋市文化財調査監査委員	元・2
阿久津淳一	群馬県立歴史博物館館長	元・2
森田 田中	国立農業工芸専門学校教諭（遺跡学）	元・2
中井 正治	群馬県立歴史博物館課長	2
小池 駿男	群馬県立施設陳列館課長	元
秋池 誠	群馬県立教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財第二係長	元・2
西田 俊治	群馬県立教育委員会文化財保護課主任	元・2
桜谷 一男	群馬県立生女子農業学校教諭（前原歴史探査 隊）及び探査委員会調査部（探査部員）	元・2
立川 忠也	前橋市歴史研究財政課員	元・2
都丸辰太郎	前橋市立歴史博物館課長	2
田中 正則	前橋市立歴史博物館第二係長	2
高橋 眞鶴	前橋市教育委員会文化財保護課 文化財保護係長	元・2
遠藤 和次	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長	元・2
浜田 博一	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係員	元
酒井 朝晴	前橋市立歴史博物館主任	元・2
丸山 伯人	前橋市立歴史博物館	元・2
勘助 秀一	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	2
高橋 正男	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	2
園柳 守仁	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	元・2
井野 伸一	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	2
前田 豊	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	2
伊藤 良	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	2
岡崎 古晴	前橋市立教育委員会文化財保護課主任	元
鈴木 瑛恵	前橋市立教育委員会文化財保護課主事	元

大室公園史跡整備基本構想図



事業計画

		1996年 平成8年 2年	1997年 3年	1998年 4年	1999年 5年	2000年 6年	2001年 7年	2002年 8年	2003年 9年	2004年 10年
史跡整備	調査 計画 整備	○	△	△	△	△	△	△	△	△
民家愛護	調査 計画 実施	△	○	△	△	△	△	△	△	△
資料館 建物	展示	△	○	△	△	△	△	△	△	△
公園整備	計画 整備	△	○	△	△	△	△	△	△	△

(2) 総社歴史散歩道整備事業

平成2年度は、昨年度までに実施した85基の案内表示板の設置を踏まえて、次の事業を実施しました。

①史跡文化財推定復原図作成（9枚）

総社城・総社城下復原図、前橋城復原図、総社神社復原図、山王廃寺復原図、上野国府復原図、総社二子山古墳復原図、宝塔山古墳復原図、蛇穴山古墳復原図、王山古墳復原図。

②史跡文化財案内板イラスト図作成（3枚）

JR群馬総社駅、JR新前橋駅、JR前橋駅を起点としたもの。

③総社・元総社歴史散歩道ガイドブック作成

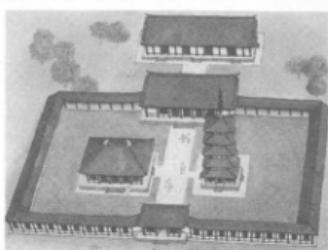
6つのモデルコースによって史跡文化財を紹介。8500部印刷。

④駐輪場設置（山王廃寺前）

⑤観光資源保護調査現地報告会実施（11月18日）

⑥「秋元歴史まつり」への協力（11月17・18日）

（地元自治会中心に開催、6000人の参加者有）



山王廃寺復原図



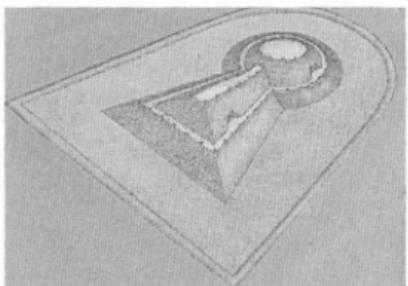
JR群馬総社駅史跡文化財案内板



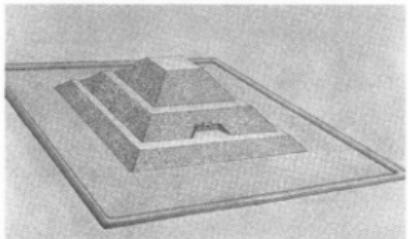
総社城・総社城下復原図



上野国府復原図



(總社)二子山古墳復原図



宝塔山古墳復原図



(總社)神社復原図

(3) 龍海院酒井家墓地保存整備事業

前橋市紅葉町にある名刹龍海院には、前橋藩主酒井氏歴代墓地があります。長年の風雪により、墓地の傷みが激しいので、平成2年度より3ヶ年計画で保存整備工事が始まりました。整備主体は龍海院酒井家墓地保存整備委員会（会長佐田一郎氏）ですが、市では補助金を交付して保存整備に協力しました。

*平成2年度実施内容

①墓地入口部分の整備

（屋根付き門、柵、説明板、標柱の設置）

②灯籠の移設

③樹木の剪定、移植、植栽

*今後の整備内容

①墓石の補修

②墓地内の整備



酒井家墓地入口

龍海院酒井家墓地保存整備委員会

役職	氏名	住所	連絡先(電話)
会員	佐田 一郎	前橋市元絹社町1-1-7	51-1551(前田建設)
副会長	大留軍之丞	前橋市元絹社町1-16-1	21-2972(自宅)
	石川 稔一	前橋市元絹社町67	51-1212(前田印業)
	森本 三次	前橋市元絹社町1-18-10	21-2666(自宅)
顧問	成瀬 慧安	前橋市紅葉町2-8-15	21-4977(成田院)
	岡本 信正	前橋市大手町2-12-1	24-1111(岡本の家)
幹事	中山 利夫	前橋市白吉町1-14-8	34-5111(施工会議)
	松島 実治	前橋市元絹社町114-4	51-2466(自宅)
	木間 芳雄	前橋市紅葉町1-7-26	21-5660(自宅)
	高柳松之丞	前橋市紅葉町1-12-5	21-3866(自宅)
	深尾 芳紀	前橋市千代田町2-2-7	31-5801(自宅)
(常任幹事)	庵司 浩	前橋市大手町1-1-1	21-2955(庵司会館)
監事	下村善之助	前橋市紅葉町1-9-19	24-470X(事務局)
	鈴木寛太郎	前橋市紅葉町2-2-3	51-0448(自宅)
会計(兼)	庵司 浩	前橋市大手町2-1-1	21-2585(庵司会館)
	成瀬 道子	前橋市紅葉町2-8-15	21-4977(成田院)

(順不同)

(4) 八幡山古墳修復工事

前橋市朝倉町にある国指定史跡八幡山古墳の墳丘修復工事を、昨年度に引き続き実施しました。修復箇所は、後方部墳頂と西側部分で、破損の激しい部分に盛り土・植栽（リュウノヒゲ）を施し、墳丘の保護を計りました。



八幡山古墳頂

(5) 文化財補修工事

八幡山古墳修復工事に伴い、古墳まわりの傷んでいた金網のフェンス及び鉄製の柵の補修を数ヶ所行いました。



八幡山古墳フェンス補修

②前橋藩刑場跡供養塔ならびに道しるべ

.....市指定重要文化財

③山王の宝塔.....市指定重要文化財

*説明板の塗替

①龜塚山古墳.....市指定史跡

②前橋藩刑場跡供養塔ならびに道しるべ

.....市指定重要文化財

③本城氏の墓.....市指定重要文化財



(6) 標柱、説明板、案内板設置工事

平成2年度は、次に挙げる指定文化財史跡の標柱等の設置を実施しました。

*案内板の新設.....1基

①芳賀地区史跡文化財案内板（芳賀公民館）

*標柱の新設.....2基

①大福寺の宝塔.....市指定重要文化財

②小島田の阿弥陀如来坐像.....市指定重要文化財

*標柱の塗替

①今井神社古墳.....市指定史跡



(7) 史跡境界杭設置工事

平成2年度は、国指定史跡中二子古墳内の赤線

（馬入れ）部分の境界杭を設置しました。

3. 普及事業

(1) 蚕糸記念館展示替

蚕糸記念館が開館10年を迎えたことから、展示資料を充実させ分かり易くしました。第1室には「群馬のシルクロードをたずねて」のパネルがはいり、養蚕から製糸に関係する史跡が分かるようになりました。第2室では養蚕のパネル類を充実させ、新しい養蚕技術や統計が分かり易くなると共に、一定の蚕から生糸のとれる量がモデルで示されています。第3室では製糸業が全盛時の前橋の様子が写真や地図で分かるようになりました。第4室では現在も使用されている織機や絹製品、機織り人形を展示し、一連の機織りの歴史が分かり易くなると共に、民俗資料も充実させました。



昭和62年度から調査が進められてきました。

その成果を広く市民の方々に知りていただくため、現地見学会を開催いたしました。全国でも調査例のない祭祀につかたとも考えられる階段状遺構をもつ大型住居址や地震による地割れ跡、赤井戸系土器などの貴重な遺構、遺物が実際に見学できることから、雨にもかかわらず、熱心な見学者が訪れました。



(2) 第16回前橋市文化財展

・日時 平成2年8月10日㈭～9月2日㈰

・会場 前橋市立図書館

・テーマ 「秋元氏と天狗岩用水」

2年度の文化財展は、總社を治めていた秋元氏の遺品や天狗岩用水に関する絵図等を紹介しました。小学校の教材にも取り上げられているため、期間中多くの見学者が訪れ好評を博しました。

(3) 内堀遺跡現地見学会

・日時 平成3年11月4日㈰

・会場 前橋市西大塩町内堀遺跡群

前橋市ではすぐれた自然景観で知られる大室の地に『大室公園』の建設を予定しています。内堀遺跡群の発掘調査は、この公園建設に伴うもので

(4) 文化財めぐりパンフレット増刷

史跡めぐりに役立つパンフレットが好評で、残部少となつたため、昨年度までのパンフレットに新しく指定となつた文化財の場所や標語をいれ、5コースを各2千部ずつ、計1万部増刷しました。

(5) 文化財愛護ポスター作成

平成元年度に実施した第4回文化財愛護作品コンクールの最優秀作品（ポスターと標語）で、文化財愛護ポスターを作成し、市内の小中学校、郷土芸能保存団体、指定文化財管理者等に配布いたしました。

(6) 第18回前橋市郷土芸能大会

・日時 平成2年11月10日㈯午後2時～4時

・会場 前橋市民文化会館

本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に前橋市郷土芸能大会が開かれました。40年ぶり復活した上青梨子町の盆踊りをはじめ、5団体が日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい演技、演奏で観客を魅了しました。事前の広報・宣伝活動を活発に行つたため例年にも

まして大勢の市民がつめかけました。

○出演団体

- ・雷電神社太々神楽 保存会 (上新田町)
- ・伊勢音頭 保存会 (泉沢町)
- ・立石の鳥追い 育成会 (総社町)
- ・上青梨子の盆踊り 自治会 (上青梨子町)
- ・片貝の祇園 保存会 (東片貝町)



(7) 教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを作成しました。内容は「秋元氏と天狗岩用水」で、秋元氏に関係する歴史資料、絵図、文化財、用水の流れ等を撮影し、25枚をスライド化しました。

次年度には残りの15枚をスライド化し、解説書を作成し、市内中小学校・公民館等へ配布する予定です。

(8) 第9回文化財普及講座

本年度は「近世の前橋II」というテーマで、秋元氏と天狗岩用水をメインに総社を中心とした前橋の様子を平易に解説していただきました。会場は前橋市中央公民館の他、光巌寺でも実施し、秋元氏の遺品などにも接することができます、好評を博しました。本年度は講座のなかに第18回前橋市郷土芸能大会見学をいれた他「秋元歴史まつり」の会場で講座を開くことにより、講義の内容理解を助けるに新しい方向を生み出したという意見も聞かれました。開催した講座名と講師の先生方は次の通りです。

調座名と講師

回	日時	講座名	講 師	会場
1	10/27(土) 2~4PM	天狗岩用水と 男別と利用	阿久津宗二氏 (県立博物館副館長)	中央 公民館
2	11/17(土) 2~4PM	秋元氏と光巌寺	田中耕順氏 (光巌寺住職)	光巌寺
3	12/1(土) 2~4PM	秋元氏の歴史と 歴史と治績	近藤義雄氏 (前橋市文化財調査委員)	中央 公民館



(9) 史跡・文化財めぐり

本年度も30団体1500人もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。小学生の社会科見学や老人会や自治会主催の史跡めぐりをはじめ、他市町村の史跡めぐりや雑誌取材にも対応し、前橋の素晴らしさを理解していただきました。

(10) 各種講座への講師派遣

地区公民館で主催する「生涯学習」などの文化財講座に講師として依頼されるなど、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めました。

(11) 文化財防火マー

昭和24年1月26日奈良法隆寺の金堂壁画が焼失したことを見たきっかけで毎年実施されている文化財防火マーは、本年度で37回目を迎えました。今回も前橋市消防本部と協力して、次の指定文化財所在地で訓練や査察を行いました。

・火災防御訓練

善勝寺（前橋市端気町）

・防火査察

前橋市蚕糸記念館、東照宮、臨江閣本館別館、旧アメリカンボード宣教師館、孝顕寺、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、日輪寺、善勝寺、上泉郷倉、上野總社神社、光巖寺、大徳寺



⑫ 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、1年間で20件、総点数200点にも及びました。主なものは次のとおりです。

- ・四神付鈍土器 さきたま資料館へ
- ・犬付き埴輪 檜原考古資料館へ
- ・奈良三彩 県埋文センターへ
- ・柳久保遺跡出土墨画土器 栃木博物館
- ・柳久保遺跡出土繩文土器 桐生市郷土資料展示ホールへ
- ・梅木遺跡スライド 国立歴史民俗博物館へ
- ・山王庵寺の根巻石スライド 県史編さん室へ
- ・下長機操り翁式三番スライド 国立劇場文楽劇場へ

⑬ 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存の為に活動している次の文化財保存団体に本年度も補助金の助成を行いました。

- ・総社地区史跡愛存会
- ・荒砥史談会
- ・前橋市郷土芸能連絡協議会

⑭ 「関東の華 前橋城」パンフレット配布

このパンフレットは前橋城についての歴史や城構えがわかるようになっており、前年度完成したものです。今年度このパンフレットを市民の皆さんに無償配付いたしました。

⑮ その他

- ・「広報まえばし」への執筆
- ・文化財に関する問い合わせ・相談への対応
- ・史跡めぐり 普及事業の一環として「関東の華 前橋城」パンフレット配布にちなみ、前橋城の跡を探る史跡めぐりを行いました。
- ・「自転車大会世界選手権」のために50日前フェスティバルや歓迎レセプション、前夜祭などに郷土芸能が出演し、外国選手歓迎ムードを盛り上げました。

50日前フェスティバル（立川町特設会場）

西善の獅子舞

上泉の祇園（土・日曜日）

赤鳥の祭太鼓

歓迎レセプション（ロイヤルホテル）

飯玉神社神楽

前夜祭（ブリーンドーム）

大手町二丁目の祇園

駒形の祇園

六供町の廢子組



史跡めぐり（三の丸緑地）

群馬県選抜民俗芸能大会

これは県主催の行事ですが、今回は県民会館で中毛大会がおこなわれました。本市からは総社神社の祭太鼓が老練な芸を披露し、かつさいをあげました。

4. 調査事業

調査事業は、次のような構成で実施されています。文化財調査委員調査、民俗文化財調査、専門家による調査、観光資源保護調査、職員による調査。このうち、調査委員による調査と専門家による調査は、本書に項目を立てて掲載しており、民俗文化財調査も平成2年度に報告書が刊行されましたので、そちらをご覧ください。ここでは、観光資源保護調査と酒井家墓地墓石銘文調査を取り上げます。

観光資源保護調査「総社歴史散歩道」

平成元年度日本ナショナルトラストに依頼して実施した観光資源保護調査の報告会が11月18日に総社公民館で行われました。

主任調査員の東京農業大学の進士教授と畠田調査員の報告のあと、関係者によるパネルディスカッションが行われ、地元市民に大きな感銘を与えました。トラストから報告書が刊行されています。

同時に歴史散歩道の利用促進と調査報告の提言を先取りした形で秋元歴史まつりを開催し、約6,000人の参加者を迎えることができました。

酒井家墓地墓石銘文調査

酒井家墓地整備の事前調査として、墓石の調査を行いました。

一、酒井重忠夫妻

脩庚院殿榮申源英大居士

空風火水地

天和三丁巳年七月二十一日

鹽川院殿実應良朴大姉

祖師西來意

寛永四年二月十九日

二、酒井忠世

隆興院殿発向源貞大居士

前橋遺

四大本空

三、酒井忠行

(松巣院殿豊忍大居士)

四、酒井忠清	灯籠一基
故從四品羽林源成君之墓 (大昌院殿長得源成大居士)	
五、酒井忠挙	灯籠四基
故從四品羽林次將酒井雅樂頭忠挙府君之墓 (咸休院殿淳良源挙大居士)	
六、酒井忠相	
從四位下酒井雅樂頭忠相君墓 (永昌院殿光運源穆大居士)	
七、酒井親愛	灯籠一基
故從四品酒井雅樂頭親愛府君之墓 (大葉院殿柏源樹大居士)	
八、酒井親本	灯籠一基
故從四品捨道酒井雅樂頭親本府君之墓 (台雲院殿明應源光大居士)	
九、酒井忠恭	灯籠一基
故從四品羽林次將酒井雅樂頭忠恭府君之墓 (古岳院殿忠峯源頤大居士)	
十、酒井忠以	灯籠一基
故從四位下行雅樂頭兼侍從源朝亞忠以府君之墓	
十一、酒井忠道	灯籠一基
故從四位下主計頤源朝臣忠道府君墓	
十二、酒井忠実	灯籠一基
故從四位下少將姫路城主源祇德公之墓	
十三、酒井忠學	灯籠一基 五輪塔一基
故從四位下少將姫路城主源謙光公之墓 麟光院殿濟月靜允大姉	
十四、酒井忠宝	灯籠一基
故從四位下侍從姫路城主源祇公之墓	
十五、酒井忠頤	灯籠一基 五輪塔一基
故從四位下權少將姫路城主源朝臣穂公之墓 顯壽院殿長遠妙玄曰唱大姉	
十六、酒井忠寛	
下野守從五位下酒井忠寛君墓	
十七、酒井忠良	灯籠一基
故從五位下伊賀守酒井忠良君墓 なお、灯籠、五輪塔の銘文は、紙面の都合で省略します。	

埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の調査をふりかえって

平成2年度は公共及び民間による各種開発に先立ち83件の埋蔵文化財調査を実施した。その内訳は発掘調査16遺跡、試掘調査45件、表面調査20件、立会調査2件であつた。また芳賀団地遺跡群(昭和48~55年度発掘調査)と大道遺跡(平成元年度発掘調査)の整理事業も併せて実施した。

発掘調査は全遺跡合わせて9,355m²を行い、太刀や金メッキの耳環、玉類などの副葬品を伴つた古墳(横長遺跡群)や壁の一部に祭祀用と思われる階段状の施設をもつ大形の住居跡、相対する壁面より合掌するような形で柱が作られた住居跡、平安時代の地震の痕跡(以上内堀遺跡群)、短期間に何度も立て替えられたのか重なり合つた奈良・平安時代の住居跡(元経社明神遺跡)など、多くの遺構が検出された。

開発予定の212,213m²を対象に実施された試掘調査では5カ所について遺構の存在が確認された。なお、遺構が確認されなかつたものの、周知の遺跡の縁辺地で要注意箇所について

ては開発者に対し慎重に工事を行うとともに、遺跡を発見した場合には速やかに連絡するよう指示した。

前橋市を地形的に3つの部分、すなわち赤城火山斜面と呼ばれる赤城山南斜面、広瀬川低地帯と呼ばれる広瀬川と桃木川の間や周辺、前橋台地と呼ばれる西部から南部にかけての台地の部分に分けてみると、調査件数はそれぞれ23件、17件、24件であつた。このうち発掘調査が行われた所、あるいは試掘により遺跡が確認された所は赤城火山斜面と前橋台地に多く、広瀬川低地帯では、13件は表面調査で終了し、3件の試掘も遺構無しと判定された。広瀬川低地帯では、現段階では遺跡の数は少ないが、ところどころで検出されており、今後の調査が期待されている。

各種開発により遺跡が失われていくことは誠に残念なことではあるが、表面調査、立会調査を含め、埋蔵文化財の調査により市内全域の遺跡の分布状況が解明されつつあることは市内の古代史を知るうえで意義あることである。

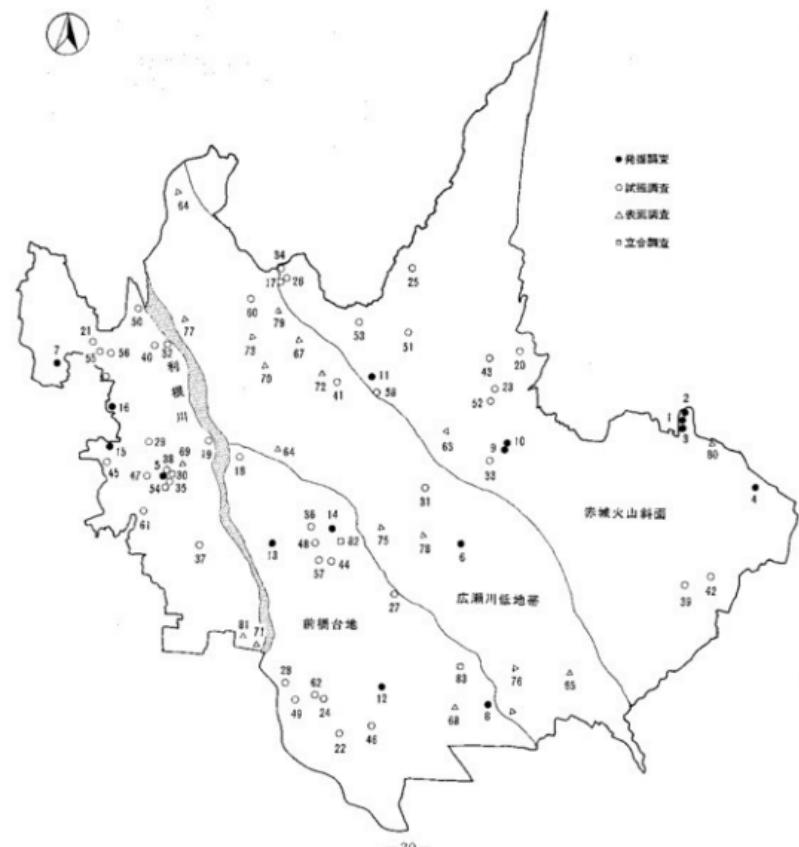


大室公園予定地

平成2年度 発掘調査一覧表

番号	調査名	調査コード	地名	調査面積	調査原因	地主	調査年月日	調査者
1	横浜港跡(第6回調査)	2E24	西大寺町南の1地	10.00	荒廃工事跡名跡	発掘	H2. 5. 15~2. 11. 30	
2	横浜港跡(第6回調査)	2E25	西大寺町南の1地	44.00	ア		H2. 5. 16~2. 7. 31	
3	横浜港跡(上綱崎跡)	2E26	西大寺町上綱崎の1地	8.50	ア		-2. 9. 8~3. 3. 15	
4	横浜港跡N	2E27	西大寺町北の1地	9.00	大室山造塗		H2. 5. 14~2. 12. 3	
5	子安町羽舟跡は	2A05	元糸井町羽舟の1地	1.10	羽舟遺跡		H2. 5. *~2. 13. 31	
6	伊勢津跡	1F2	上綱崎町伊勢津	7.00	ガソリンスタンド		-2. 5. 21~2. 5. 28	
7	新町羽舟跡	2A02	青葉町羽舟谷12番	4.00	青葉町羽舟谷12番地造成		H2. 6. 1~3. 3. 25	
8	新町羽舟跡	2G7	東浦町100番	3.50	東浦町モビリヤ成		H2. 6. 24~3. 3. 25	
9	羽衣跡	2D3	綱町羽衣の1地	1.00	桂西町小板原屋		H2. 7. 23~31	
10	羽衣町遺跡	2D5	綱町羽衣の2地	7.00	桂西町ブル建設		H3. 3. 20~30	
11	谷保跡	2D4	小田原町谷保の1地	5.00	上谷保駅		H2. 10. 1~25	
12	赤坂跡	2G8	下赤坂町赤坂	1.0	赤坂跡		H2. 7. 20~2. 8. 16	
13	赤天寺跡	2H10	六浦町赤天寺	20.00	赤天寺跡		H2. 5. 31	
14	京浜通跡	2H11	文京3丁目京浜通の1地	1.50	コミュニティセンター建設		H3. 2. 12~15	
15	小浜内遺跡	2A06	元御羽町羽舟の3地	3.00	水原地盤		H3. 2. 18~22	
16	北境分中保通跡	2A07	綱町中保通の1地	10.00	道路整備		H2. 11. 29~30	
17	弓張町羽舟跡	2D3	青葉町羽舟の2分5筆	2.00	住吉造成		試験 H2. 8. 8	有
18			大字3	24	歩道整備		H2. 5. 10	無
19	小浜町王1通跡		大浦町1-2-6地	1.85	小浜町王1通跡		H2. 7. 17~15	有
20			浜町御前町1-3地	45.00	公園整備		H2. 3. 2~21	無
21			豊島1-10-1-2地	13.40	道路整備		H3. 2. 1	無
22			豊島1-10-1-2地内	3.10	道路整備		H3. 1. 23	無
23			豊島1-10-1-2地内	42.00	土地造成		H12. 13. 18	無
24			豊島1-10-1-2地内	4.00	レストラン建設		H2. 4. 26	無
25			豊島1-10-1-2地内	24.10	ゴルフ練習場建設		H2. 4. 13	無
26			豊島1-10-1-2地内	1.00	福祐町建設		H2. 6. 14	無
27			立川町1-30-23	1.00	アパート棟		H2. 5. 8	無
28			立川町1-30-23	3.00	立川駅		H2. 5. 15	無
29			綱町羽舟社子守町羽舟大通西4-1地	1.95	事業用貸付		H2. 5. 25	無
30			大友町3-5-1	1.00	アパート棟		H2. 8. 6	無
31			東片町411-4	0.00	工場建設		H2. 8. 21	無
32			鶴見羽舟野子守町井前地	2.28	ア		C2. 7. 2	無
33			石2-10-1-2地	1.00	ガソリンスタンド・建物		H2. 4. 9	無
34			元新町羽舟野子守町井前地	90.00	マンション建設		H2. 7. 26	無
35			文京2-30-1地	2.00	ア		H2. 8. 20	無
36			小田原町羽舟251地	4.00	住居展示場建設		H2. 13. 3	無
37			元新町羽舟野子守町井前地	4.00	歩道整備		H2. 9. 20	無
38			新1井町562	0.00	ア		H2. 9. 13	無
39			新1井町羽舟子守町井前地	3.043	三井造塗		H2. 12. 5	無
40			下鶴井町5-1	1.033	ア		H2. 13. 8	無
41			東大寺町10-1地	2.700	ガソリンスタンド・建物		H2. 12. 11	無
42			新御町54-5	8.500	事務所建物		H2. 12. 29	無
43			天津町東1-1-1地	1.00	六本木会		H2. 12. 6	無
44			天津町東1-1-1地	2.175	ア		H2. 11. 7	無
45			鶴見町200-1地	4.500	事務所建設		H13. 1. 22	無
46			元新町200-1地	349	ア		H2. 12. 13	無
47			二子山地区10街区の地	1.574	弓削建設		H12. 12. 4	無
48			公田町40-1地	2.000	ア		H2. 12. 28	無
49			鶴見町羽舟2-30-8	1.888	マンション建設		H2. 12. 12	無
50	芳賀北原跡		尾崎町北原町1-1	1.00	走馬塚遺産		H13. 1. 7	有
51			上柴町浜安寺2072-2地	2.27	弓削建設		H3. 1. 28	無
52			上柴町浜安寺2072-1地	1.00	走馬塚遺産建設		H3. 3. 14~15	無
53			元新町14050-100-8	96	香建設		H3. 1. 28	無
54			高井町1-30-7地	2.00	マンション建設		H3. 1. 29	無
55			高井町1-27-13地	1.14	不動産会員		H3. 2. 20	無
56			天津町東1-1-1地	2.231	弓削建設		H3. 2. 27	無
57			篠美町1-1-2	1.006	ガソリンスタンド建設		H3. 3. 8	無
58			鶴見町羽舟井子守町60-1	0.301	弓削建設		H3. 3. 15	無
59			青柳町羽舟井子守町60-1	0.000	宅地造成		H3. 3. 26	無
60			元新町羽舟野子守町602-1地	3.500	店舗建設		H3. 2. 18	無
61			鶴見町羽舟井子守町5-5地	1.500	ドライブイン建設	表面	-2. 4. 25	無
62			上柴町1-15-1地	4.300	保育園建設		H2. 7. 3	無

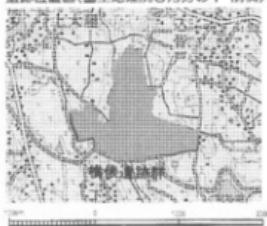
番号	調査名	調査コード	地名	調査面積	調査原因	種別	調査年月日	備考
63			千代田町3	82	古文学跡調査	表査	H2. 12. 26	無
64			上郷田代沢	4,04	谷和保育園	II	H2. 9. 17	無
65			三日町字中島1340c	14,78	宅地造成	II	H2. 4. 12	無
66			「郷左司」字本宿1~6地	4,156	宅地造成	II	H2. 4. 17	無
67			佐野市字舟引4丁~2地	2,029	ガソリンスタンド建設	II	H2. 5. 1	無
68			大久保2~5~14	900	事務所建設	II	H2. 5. 10	無
69			下小田町2~14~1地	1,259	店舗建設	II	H2. 5. 14	無
70			「山田町」字御門16~1地	1,098	アパート建設	II	H2. 5. 16	無
71			下大島町7代3~5	955	宅地造成	II	H2. 5. 20	無
72			下光岡3~5~6地	1,317	事務所建設	II	H2. 7. 10	無
73			猪崎町字下光岡1~2地	2,555	住宅建設(建て売り)	II	H2. 8. 20	無
74			美川大島町2地	864	アパート造成	II	H2. 11. 8	無
75			下大島町字明下1124~9地	30,131	宅地造成	II	H2. 11. 21	無
76			静2丘16~8	266	宅地造成	II	H3. 2. 1	無
77			天川大島町3	125	送電線路建設	II	H3. 2. 7	無
78			猪崎町字下光岡1~1地	2,311	宅地造成	II	H3. 2. 19	無
79	七ヶ石透跡		西大島町2	5,483	土地売却	II	H3. 3. 23	有
80			下野田町2~2地	2,012	宅地造成	II	H2. 4. 4	無
81			又吉町妙内	3,122	道路建設	II	H2. 6. 25	無
82	アミゲ山内蔵	2G7	山下町原1~2	960	墳地造成	II	H3. 3. 12~4. 10	無



1. 横俵遺跡群の穴II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 荒砥工楽園地造成工事(前橋工業団地造成組合)

所在地 前橋市西大室町17番地ほか

調査期間 2年5月16日～2年12月1日

担当者 都所敬尚・狩野吉弘

調査面積 10,000m²

調査の経緯 昭和63年度より上記事業に伴う調査依頼が提出され、3年次を迎えた。今年度の調査範囲は、昨年度民間委託によって試掘調査され遺構が確認されていた熊の穴の丘陵部分を実施した。

立地 横俵遺跡群は、前橋市街地の東方約9kmに位置する。北は胡町、東は柏川村に接し、地形的には、赤城山南麓に広がるなだらかな斜面上に立地している。その中でも熊の穴II遺跡は本遺跡群の中でも最も標高の高い場所に位置し、その基盤層は赤城山の形成過程で作られた「流れ山」と呼ばれるものと考えられ、その上にローム層が堆積した丘陵である。

旧石器時代 丘陵の頂上部付近で、ローム層内に堆積するA T層(始終丹沢火山灰: 約21,000～22,000年前)の下にからナイフ形石器10点のほか、石錐・石核・剝片等合わせて128点が検出され、前橋市内においても貴重な発見となつた。

縄文時代 住居址2軒、竪穴状遺構1基、集石3基、土坑27基が検出された。

出土遺物からこれらの所産時期は前期階層期と考えられる。また、遺物包含層からは土器86,740点、石器6,035点という膨大な量の遺物が出土し、土器は草創期燃系文系から後期後半加曾利B式まで断続的に検出された。そのうち主体となるのは前期竹巻文系のものであり、遺構の所産時期と一致するものである。本遺跡では包含層から出土した遺物の量に対し、遺構が少ないという特徴がみられる。

弥生時代 なし。

古墳時代 本遺跡は終末期の群集墳の存在が以前から認められており、今回の調査では9基の古墳が確認された。ただ昭和23年に行われた開墾のためか、ひどく破壊されているもののが多かった。主体部は安山岩を使用しており、その使用石材及び古墳の様相からみると、所産時期は7世紀後半代のものと考えられる。

奈良時代 なし。

平安時代 住居址1軒、半地下水式の炭窯址2基が検出された。炭窯址は覆土の中にAs-Bの純層が確認され、近隣町村で検出されたものと同様のものであろう。

2. 内堀遺跡群IV



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 大室公園整備事業(公園緑地課)

所在地 前橋市西大室町

調査期間 2年5月15日～2年11月30日

担当者 前原 豊・伊藤 良

調査面積 発掘調査: 9,000m²

確認調査: 2,500m²

調査の経緯 上記事業に先立ち公団設計の基礎資料にすることを目的とし、公園緑地課より調査依頼があり発掘調査にいた。昭和62年度に始まり今年度で4年めになる。

立地 前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に柏川村、東に赤城町が隣接する。周辺には三二子古墳をはじめ、上総引遺跡、柳木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代 未調査

縄文時代 下層について未調査のため全貌は明らかではないが、縄文時代後期初頭の竪穴状遺構を検出した。このほかに、調査区から縄文時代早期から後期までの遺物包含層を検出した。

弥生・古墳時代 竪穴状住居址37軒、遺物集中区1基、竪穴状遺構3基、溝状

遺構1条、井戸1基を検出した。住居址のうち、弥生時代末から古墳初頭にかけてのものが3軒、古墳時代中期のものが3軒、古墳後期の難をもつものが1軒であつた。住居址の形、大きさ、深さなど様々であるが、最大のものは、一辺が8m、深さが1mを超える大形住居址も検出した。また、横穴葬戸穴、対向壁斜め2本柱穴、柱受け粘土貼り柱穴、階段状施設、複数炉といった付属施設をもつ住居址も検出した。住居址内より出土した遺物数は20,000点を超え、土器の種類も様々で、地域性をもつ弥生時代からの伝統を引き継ぐ土器や夷東束・夷舟などの外来系の土器とともに、古墳時代の土器が多数出土した。また、弥生時代の伝統を色濃く残す鉄鏡なども出土した。

奈良・平安時代 平安時代初期 818年の大地震の際形成された地割れが、大きく2カ所検出できた。

中・近世 溝状遺構6軒、土坑15基を検出。溝状遺構の中には、直角方向しか検査できなかつたが、50m四方の区画になると想定できる14世紀代の館跡も含まれている。

3. 元総社明神遺跡IX



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 前橋市都市計画事業元総社(西御第三明神)地区土地区画整理事業(施工者 前橋市
代表者 藤原清多)

所在地 前橋市元総社町

調査期間 平成2年5月7日～2年10月
31日

担当者 井上敏夫・鈴木雅浩

調査面積 2,218m²

調査の経緯 昭和57年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第9年度を迎えた。今年度は昭和59年に締結した覚書に基づき都市計画道路の一部分、前橋一足門線に通じる区域の発掘調査を実施した。

立地 前橋市街地の西約2kmに位置し、榛名山の裾野が緩やかな傾斜面をみせながら利根川へ落ち込もうとする前橋台地の緩辺、牛泡川左岸の前橋台地上に立地している。本地域は古くから上野国府推定地とされ、周辺には国分寺や山王庵寺、宝塔山古墳・蛇穴山古墳が存在する。

調査時代 遺物は白磁からわざかの土器片が出土した。

弥生時代 遺構は検出されなかつたが、

遺物包含層より弥生時代後期の土器が数点出土した。

古墳時代 古墳時代後期の住居址9軒、土坑多数が検出された。該群の大部分の住居には重複が見られ、東西軸を長軸にもつ傾向にある。各住居址共、貼床を施し、層は白色粘土を利用しているもの、地山埋め残しの二種類が見られた。遺物は土師器類・土師器・須恵器・白玉等、多数出土している。

奈良時代 なし。

平安時代 住居址36軒、溝跡3条が検出された。出土遺物から住居址は、ほとんどが羽釜出現以降のもので、いずれも複複に重なりあっていることから、短期間に住居が作りかえられていくことがうかがえる。遺物は高台碗や羽釜、カワラケの他、灰釉陶器が多く出土している。特に白磁・綠釉片など国府城である特殊性を物語る遺物も出土した。また、複弁蓮華文を有する山王庵寺系の軒丸瓦2点が出土した。

中世 表採を含め続駆陶器等、十数点の遺物が出土している。

近世 八日市堀城関係の遺構とみられる「臺」を検出した。

4. 伊勢遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 民商開発(カノリンドスタンド新設)

所在地 前橋市上長穂町276-1他2筆

調査期間 平成2年5月23日～6月28日

担当者 新保一美(市調査団)・荻野博巳(スナガ環境測定株式会社)

調査面積 700m²

調査の経緯 国道50号線拡幅工事に伴い既設スタンドの移設のための開発計画が起り、市教育委員会に調査が依頼された。これを受け、平成2年2月16日に試験調査を実施したところ、平安時代の住居跡や土壙群・溝を検出した。この結果に基づき事業者と協議を重ね、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測定株式会社に調査を委託し、平成2年5月28日より6月28日まで調査調査を実施した。

立地 本遺跡は別記舞遺跡の東方400mに位置する。遺跡地の南面は、国道50号線の拡幅部に接し、この拡幅部は東理文事業団の手により、平安時代の住居跡・土壙・溝跡・井戸跡等が検出されて調査となっていた。本遺跡は、これらの

住居跡と一体の集落を形成するものである。

集落が存在することから、かつては日利根川床であった地盤、流路の変移により集落が形成される前に凹凸状態にあつたものと想定される。

绳文時代 なし。

弥生時代 なし。

古墳時代 なし。

奈良・平安時代 住居跡11軒、溝跡9条、井戸跡2基、土壙53基、ピット31基が検出された。

遺物 住居跡からはコの字口縁を有する甕、土師器・須恵器の杯、内巻を呈する杯や底部糸切り裏を有する杯等が出土した。概そ9～10世紀の所産と推定される。

土器からは土師片や須恵片が出土し、住居跡との時代差は大きくなるものと思慮される。用途については不明である。

グリッド出土としては土錐があり、この時期の利根流域が調査地から遠くないことを想定される。

5. 粧跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 民間開発(店舗新設)
所在地 前橋市岩町406-2-他4戸
調査期間 平成2年2月7、8日
担当者 遠藤和夫・新保一美(教委)
調査面積 40坪

調査の経緯 株式会社松済本店より開発計画に先立つ調査依頼が提出され、平成2年2月6日に試掘調査を実施したところ、鬼高窓の土器を伴出した住居跡1軒を検出した。

これにより開発事業者と協議の結果、前橋市教育委員会監修で発掘調査を実施することとなった。

立地 本遺跡は国道50号を起点から4km程進んだ道路沿いにあり、市街地の南東に位置する。

この周辺は旧利根川の流路にあたり、遺構が殆ど存在しない地域であると考えられていたが、近年の50号線拡幅工事に伴う事前の調査で、平安時代を中心とした遺跡の分布が知られるようになってきた。

縄文時代 なし。

弥生時代 なし。

古墳時代 表土下170cmで厚い砂礫層

となり、申請地が旧利根川の流路の一部であったことが実証された。この旧利根川が氾濫土砂の堆積を受けたと思われる地点で住居跡1軒を検出した。遺構確認面は表土下400余であった。

住居の大きさは東西5.8m南北5.4mで、壁面から床までの深さは30cm強であり、灰白色砂質土を床面とし、カマドは前は粘土を貼った堅面が存在した。

遺物は長財腰2個、小型腰3個、立上がりが外に開く二段有縫の杯2個、石製短鎌車2個と網状石10点以上が出土した。

土器は全体的に鬼高窓としては新しい要素を有し、鬼高窓に属するものと判断される。

広瀬川低地帯には片貝神社古墳が存在するが、旧利根川流路から古墳時代の住居跡が確認されたことにより、新たな資料の提示となるものである。

平安時代 本遺跡に於ては遺構は確認されなかつたが、周辺では住居跡や水田跡等が確認され、調査がなされている。

6. 沼西遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 桂賀東小校地拡張
所在地 前橋市堤町445-2、481-1
調査期間 平成3年1月21日~1月29日
担当者 井野誠一・新保一美(教委)
調査面積 1,058.96m²

調査の経緯 平成2年6月22日付で、前橋市教育委員会輸送課より、桂賀東小校地拡張に伴う埋蔵文化財の試掘調査依頼が提出された。試掘調査の結果住居跡が検出され、本調査を実施することになった。調査は削平をうけるつけかえ道路部分で行われた。

立地 本遺跡地は、市の東部で、赤城南面を流れる小河川によりできた南北に長い台地上に位置する。

東の台地は昭和60年調査の萱野町地遺跡にある。

トレンチ調査の結果からは台地の東面に遺構が集中して存在していることが推定された。

旧石器時代 遺構・遺物ともなし。

縄文時代 土器片・石器が検出されたが遺構の検出には至らなかつた。

弥生時代~奈良時代 遺構・遺物ともなし。

平安時代 穹穴住居跡6軒が検出された。調査区が道路部分に限られていたため2軒は部分発掘にとどまつた。カマドは東向きで、1号住居跡の残存状態が良好かつた。

遺物は、土器器が主で、若干の須恵器片がまじっていた。

1号住居跡からは鉄製品の出土が多く、鉄製短鎌車、刀子、鎌が検出された。

道路部分の調査ではあつたが、集中して遺構が確認された。時代が飛ばれており、この地域でのこの地区の開発の状況を示す一つの資料になつたと言えよう。

7. 沼西II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 桂萱東小学校プール建設
所在地 前橋市淀町467-2、3地
調査期間 平成3年3月20日～3月30日
担当者 井野誠一・新保一美(教委)
調査面積 1,187.4m²

調査の経緯 平成3年3月1日付で、教育委員会給事課より、桂萱東小学校校庭内にプール建設に伴う試掘調査依頼が提出された。校庭南側の道路部分東側は沼西遺跡として平安時代の住居跡が検出されており、今回のプール予定地にも同時期の住居跡の存在が予想された。試掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡4軒と溝1条が検出され、本調査を実施することになった。

立地 志城南面の南北に長い河川による台地上に位置する。台地の東側に南北に長く続く遺跡内。沼西遺跡とは時期も同じであり同一の遺跡の一部を形成するものと考えられる。東西の小河川開削の谷地をひきこめて形成された集落と考えられる。

旧石器時代 遺物・遺構ともなし。
縄文～奈良時代 遺物・遺構ともなし。
平安時代 竪穴住居跡4軒と溝1条が

検出された。

北端のH-1・H-4は比較的小規模で、検出層高も浅いものであった。

南端のH-2・H-3は規模の大きなもので、沼西遺跡検出住居跡の約4倍の広さをもつ。(H-3は部分掘)

H-2はその後溝が重複しており、埋土は底部に砂が多く、上層はほとんどが砂であった。埋土中層には日灰層と白経石層が認められた。溝は住居跡北面では広く、底面も深くえぐられていたが、住居あと域よりは床面がほとんど欠けていて、若干西壁がかけている程度であった。

H-3はこのカマドを東壁にもっており、作り直しとみられる。このカマドの間に袖石が一石認められた。

沼西遺跡と含めて考えると、規模の大きさからみて、集落の中核の住居と考えられ、また、北の小河川敷地の住居はその性格に考察を要する。

8. 谷端遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 上沖土地改良事業
所在地 前橋市小神明町165-1他
調査期間 平成3年3月1日～15日
担当者 井野誠一・新保一美(教委)
会員会財政保護課
調査面積 100m²(道路部分)

調査の経緯 平成2年2月7日付で、上沖土地改良事業共同施行により、土地改良事業に伴う表面調査依頼があり、調査の結果、遺跡の可能性が認められた。

表土の削平が行われる道路部分が調査の対象となり、試掘調査の結果古墳時代の住居跡8軒、平安時代の住居跡1軒が検出された。

調査地の北東部に古墳時代の住居跡が集中して検出されており、平安時代の住居跡は南側に一軒離れて検出された。

立地 旧利根川左岸の台地上、赤城山の裾野にあたり、東・西を小河川が深い谷を作っている。

対象地は、ほぼ平坦であった。調査結果からは、若干の高低はあったものの、現状とあまり差がみられなかつた。

台地北の小神明遺跡Ⅲでは遺構はあまり検出されていない。東側の台地の築堤

遺跡群では住居跡・住居等が検出されている。

旧石器・縄文時代 遺構・遺物ともなし。

古墳時代 竪穴住居跡8軒が検出された。集中して検出されており、規模も近いものが多い。カマドは東が多いが、北・西のものもある。周辺は遺物の分布も多く、かなりの集落と考えられる。

埋土は焼土、炭化物を比較的多く含んでいる住居跡と、あまり含まれないものに分けられた。

平安時代 南に離れた検出されたH-8は、時期が北とは異なり、別の集落である。調査区内では検出数は一軒であるが、周辺には竪穴住居跡存在の可能性が高い。

中世 上沖土地改良事業対象区の南西部は小神明の寺居と呼ばれていたところであるが、調査の結果、遺物・遺構ともに検出されなかつた。

9. 寄居遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 五中地区集会施設建設
所在地 前橋市文京町三丁目
調査期間 平成3年2月12日～15日
担当者 井野誠一・新保一美(教育委員会文化財保護課)
調査面積 1,513.9m²

調査の経緯 平成2年11月9日付で、社会教育課より、五中地区コミュニティーセンター的集会施設建設に先づつ埋蔵文化財の試掘調査依頼が提出された。開発予定地は市街地内ではあるが、資料によると「天川の寄居」と呼ばれる居館址と考えられる遺跡があり、本調査地内でその周辺を重複することが考えられた。

試掘調査の結果、南北に走る溝一条が検出され、「天川の寄居」の周辺と考えられたため本調査を実施した。

立地 現状は市街地の平坦地であるが、朝倉、広瀬につながる古墳群の北端部にあたり、南側には「女溝」と呼ばれる溝状の遺構が走り、東を篠井川が通る。周辺は古墳で天川二子山古墳群が近く、また天川二子山古墳西の県立文書館裏跡からは周溝、中世の溝も検出されており、中世の遺構も多数みられる地域である。

検出遺構 調査地中央に南北に走る溝が検出された。巾は8～9mで深さは約2.8mを測る。漏水が多く底部は露出できなかつた。埋土は砂質が軟質であった。

位置 形状からみると「天川の寄居」の南東部の周に相当すると考えられるが、遺物の検出はなく、ポイントになる鉄石層もなく今回部分の調査のみでは断定しがたい。

10. 小見内遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 小規模土地改良(水路改良)
所在地 前橋市元船寺町1,701-3他
調査期間 平成3年2月18日～22日
担当者 井野誠一・新保一美(教育委員会文化財保護課)
調査面積 302.1m²

調査の経緯 本事業は小規模土地改良事業における水路改良工事にあたり、旧い水路を新しいものに交換改良するものである。しかし、事業地が推定国分尼寺寺域にあたることから工事施行に際し立ち合い調査の結果、旧水路部分では掘削がなされたいたが、水路壁面、水路底面より竪穴住居跡5軒と溝2条が検出され、ただちに本調査を実施した。

立地 推定国分尼寺域にあたり、国分寺中間地域遺跡に隣接している。柴谷川と牛泡川にはさまれたやや南に傾斜の地にあたる。

旧石器～弥生時代 遺物・遺構とも検出されず。

奈良・平安時代 検出された竪穴住居のうち4軒は水路壁面で確認されたのみで、詳細はつかみえなかつた。検出された一軒の竪穴住居跡も旧水路工事で壁面

のほとんどを削平されており、遺物も時期がまちまちであり、時期を特定しがたい。溝は2条検出されている。1条は事業地より東へ田分尼寺域に入る長い度道の南に平行して走り、事業地の中央で北に直に曲がっている。底部のみの検出であり、上面現状は耕作のため不明である。埋土中に瓦片が多く含まれていた。国分尼寺との関連も考えられるが、周辺では溝が多く検出されており、今回調査部のみでは関連については明確にしがたい。

もう一本の溝は、上記溝の10mほど南を東西に走るものであるが、上記溝よりは埋土の点では新しいとみられるが、遺物は検出されず不明である。

国分尼寺域については、いくつかの脱があり、まだ寺域も確定されていない。

今回の調査も国分尼寺の一資料になるものと考える。

11. 北原分中塚遺跡



事業名 小堀廢土地改良（農道舗装）
所在地 前橋市鶴枝町鶴枝2,518他
調査期間 平成3年3月25日～26日
担当者 井野誠一・新保一美（教育委員会文化財保護課）
調査面積 100m²

調査の経緯 平成3年1月14日付で、土地改良により、小堀廢土地改良に伴う農道舗装について、埋蔵文化財の包蔵地にあたり、確認調査の依頼があった。確認調査の結果旧道路造成時に道路域内は削平されており、道路部掘削部の壁面に住居跡が検出されたのみであった。

立地 廃耕地は牛乳川左岸で、ほぼ平坦地になっている。山王寺西側で、遺構の存在が考えられる地である。西側の高速道路敷地内には遺構が多数検出されている。東側の元農耕場下でも住居跡と窓が検出されている。

旧石器～秦代時代 遺物・遺構なし。

平安時代 積石穴住跡 5軒が検出されている。

いざれも壁面での検出であり、特記できる遺物はない。

山王寺西側で検出された洞は、埋土

からみると新しいもので、山王寺とは係わりのないものと考えられる。

12. 芳賀団地遺跡



芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業

芳賀団地遺跡整理事業は、昭和61年から5年にかけての調査に引き続き、昭和56年度より整理事業を開始し、昭和58年度からは作成委員会を組織し、事業を行ってきた。

調査面積は、芳賀北団地・西団地・芳賀東部団地遺跡を合わせて44.5haにあふる。芳賀北団地・東部団地遺跡では台地のほとんどを面的に調査しており、残りの少ない貴重な調査例となっている。

芳賀東部団地遺跡では古墳時代から奈良平安時代にかけての住居跡の変遷がどれど、地域の歴史解明の貴重な資料となっている。

調査面積は、芳賀西団地遺跡では多くの古墳を復元することができた。古墳の墳丘の切り合いで、削平の時期についても貴重な資料となつた。

本年度は芳賀西部団地遺跡（芳賀団地遺跡第4巻）の刊行作業及び芳賀北団地遺跡部分の遺構・遺物の整理作業を実施した。

芳賀西団地遺跡では、発掘調査終了後の整理作業が遺物洗浄まであつたため整理作業実施にあたっては労力を要した。

本年度は芳賀北団地遺跡の整理に入る。遺構遺物とともに多量であり、作業量は作業効率を考えると、土礫砕を伴う遺構と、鍔文・中近世縄の二分冊に分ける方向で全体の構成、分担の検討を行う予定になっている。当面は土礫砕を伴う遺構の整理を進めることになっている。

芳賀北団地遺跡では、芳賀東部団地遺跡にくらべ平安期でも、さらに新しいものが多い。また、縄文等の貴重な遺物が多く含まれている。

鍔文時代の遺構には中期が多く、敷石も含まれ、遺物の点でも芳賀東部団地遺跡とは異なる点があり、考察を要する。

臨江閣本館及び茶室保存修理

事業の運営と経過

事業運営の方法 この事業は、群馬県文化財保護条例に基づく文化財保護事業として執行され、群馬県並びに前橋市教育委員会の指導を受けて諸般の業務を行つた。

事業の運営については群馬県文化財保護条例、群馬県補助金等に係わる予算の執行の適正化に関する関係規則および前橋市財務規則、その他関係法規を遵守し、適格な運用を図つた。

工事の設計監理は財團法人文化財建造物保存技術協会（東京都）に委託した。同協会は現場に事務所を置き、各種調査期間中は技術員を常駐させると共に必要に応じて工事監督を派遣して業務遂行にあたつた。

施工は各年度毎に一括請負工事として、不二建設株式会社が実務を担当した。

実施工程 事業期間三十八カ月として昭和六十二年十一月一日に着手、平成二年十二月二十日に事業を完了した。

修理の概要

(1) 本館 屋根葺替及び部分修理

基礎 留守居棟及び便所・湯殿棟の復元部分の基礎、主屋南面の雨落石の据直し、地盤のすき取り、軒下、座敷縁下の叩き修理を行つた。

木部 土台、柱根、腰壁板の腐朽・破損部の補修、二階梁の補強、各床及び天井、造作類の補修・取替、留守居棟及び便所・湯殿棟の復元を行つた。

屋根 瓦はすべて取り外し、野地補修を行つて葺替え、在来どおり目地漆喰塗りを行つた。また南側下屋庇屋根鋼板葺をこけら葺に復旧した。

壁庇の内外の漆喰塗を上塗り直し、内部は砂壁の上塗直しを行つた。

建具 決失部の襖を補足し、板戸（雨戸）、

襖、明障子、ガラス戸等の補修を行つた。

その他 疊の新調、防蟻の土壌処理、雨樋の補修のほか、電灯、防災等の設備をやりなあした。

(2) 茶室 屋根葺替及び部分修理

基礎 北側の復元部分の基礎及び不同沈下の基礎据直し、土庇軒下の叩き補修、北面の地盤すき取りを行つた。

木部 土台、柱根の腐朽・破損部分の補修及び床・雑作材の補修・取替を実施し、北側の改変部を復旧した。

屋根 瓦はすべて取外、野地補修のうえ葺替え、在来どおり目地漆喰塗りを施した。また南側土庇屋根鉄板葺を銅板葺に改めた。

壁庇 内外の壁の補修を行つた。

建具 北側の復元部分の建具を新調したほか、在来建具の補修を行つた。

その他 疊の新調、防蟻の土壌処理、雨樋の補修のほか、電灯、防災等の設備をやりなあした。

あとがき

文化財にたいして、頑固に昔のものを守るというイメージを持つ方はまだ多いようです。文化財と名がつけば何人といえどいっさい手をふれてはならない。

まだ、文化財に対して理解が充分でないときには、そんな印象を持たれることもあったかもしれません。

しかし、市民のみなさんの文化、文化財への理解の高まりは、文化財の保存から利活用へという新しい動きを押し進めようとしています。

平成2年11月に開催された、秋元歴史まつりは、文化財の利活用を行うことで、文化財保護や地域への一層の理解を深める効果があったと考えています。

その地域にある文化財を保存整備して生かして使う。このことが地域の個性を発揮させ、魅力あるまちづくりに役立つのです。

平成3年9月

文化財保護課長

福田 紀雄

平成2年度

前橋市文化財調査委員

近藤義雄
中沢右吾
丸山知良
松島栄治
梅沢重昭

文化財保護課職員

文化財保護課長	福田 紀雄
埋蔵文化財係長	遠藤和夫
文化財保護係長	高橋 賢靖
主任	駒倉秀一
"	高橋正男
"	園部守央
"	井野誠一
"	井野修二
"	前原豊
"	井上敏夫
"	伊藤良
"	狩野吉弘
主事	鈴木雅浩
"	都所敬尚
嘱託員	新保一美

平成2年度 文化財調査報告書 第21集

平成3年9月25日印刷

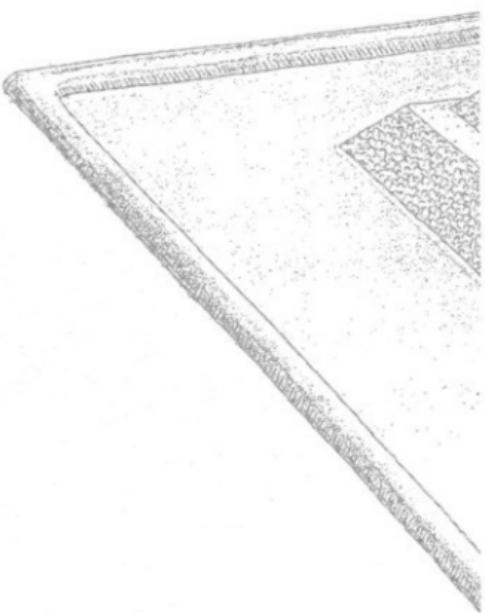
平成3年9月30日発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

前橋市上衆町664-4

印刷 上毎印刷工業株式会社

前橋市天川大島町305-1



宝塔山古墳復原図
(總社町・国史)